





大子まちなかビジョン

令和3年3月
大子町







― 目　次 ―

（１）大子まちなかビジョンについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
（２）施策の内容と整備の方向性について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７
方針１　防災力のあるまちづくり
１－１.大子町役場の移転・新庁舎建設・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７
１－２.大子町役場跡地の防災拠点化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８
１－３.道の駅奥久慈だいごの防災機能強化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３
１－４.河川改修・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１６
１－５.治水対策の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１７
１－６.橋梁の整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８

方針２　賑わいのあるまちづくり
２－１.大子町役場跡地の利活用（交流機能）
道の駅奥久慈だいごの交流機能強化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０
２－２.水辺と親しむ環境整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２５
２－３.まちなかの環境整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２６

方針３　周辺と連携したまちづくり
３－１.道路ネットワークの機能向上・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３５
３－２.公共交通実証実験・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４０
３－３.自動運転システムの試行・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４２

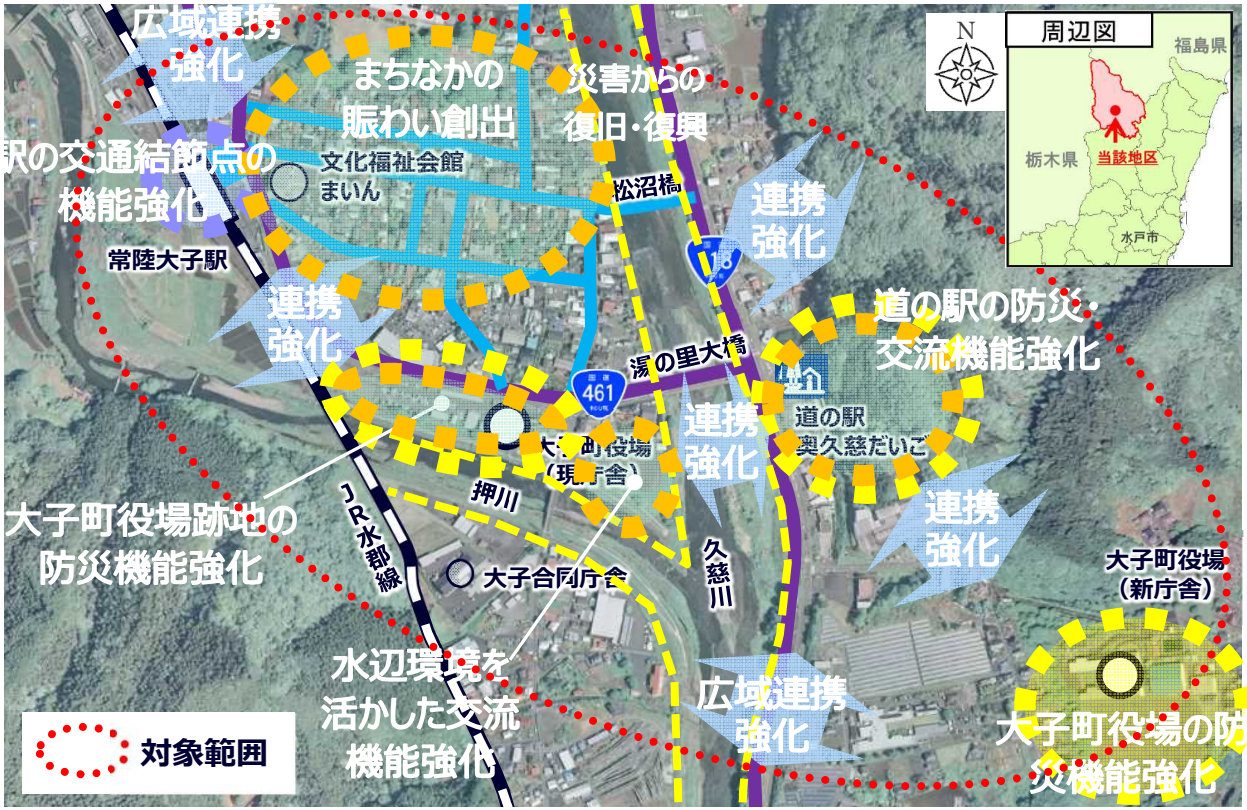
（３）公民連携型施策について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５０
１－１.住民参加タイプ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５０
１－２.事業者参加タイプ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６６
（４）今後の進め方について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６９
（５）巻末資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７０

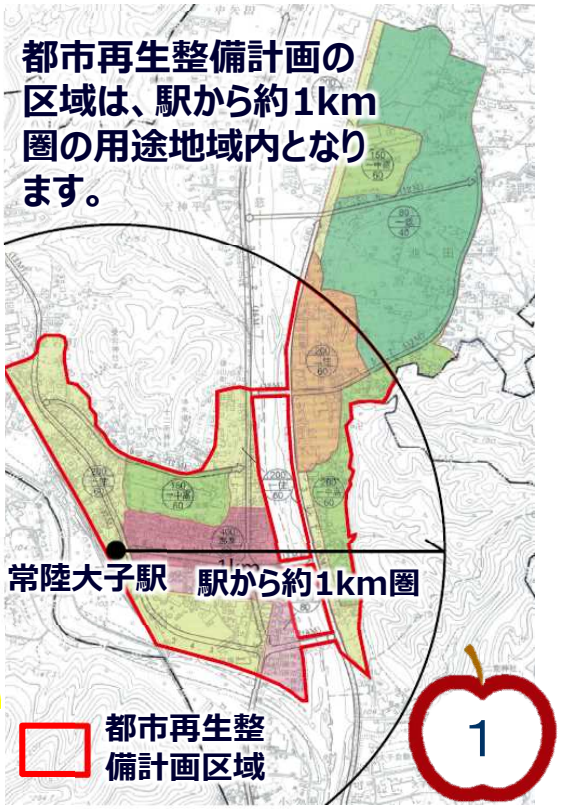
（１）大子まちなかビジョンについて

■対象範囲と取り組むべきまちづくりの課題

大子町では、令和元年台風第19号の被災を受け、新庁舎の高台敷地への移転や道の駅奥久慈だいごの防災機能強化などの防災力の強化、人口減少・少子高齢化を踏まえたJR 常陸大子駅周辺の中心市街地の活性化や道の駅の機能強化による交流人口の増加などの賑わいづくり、新庁舎の移転に伴う駅や役場などの拠点間の連携強化や町内外の交流強化などのネットワーク強化が必要となっています。

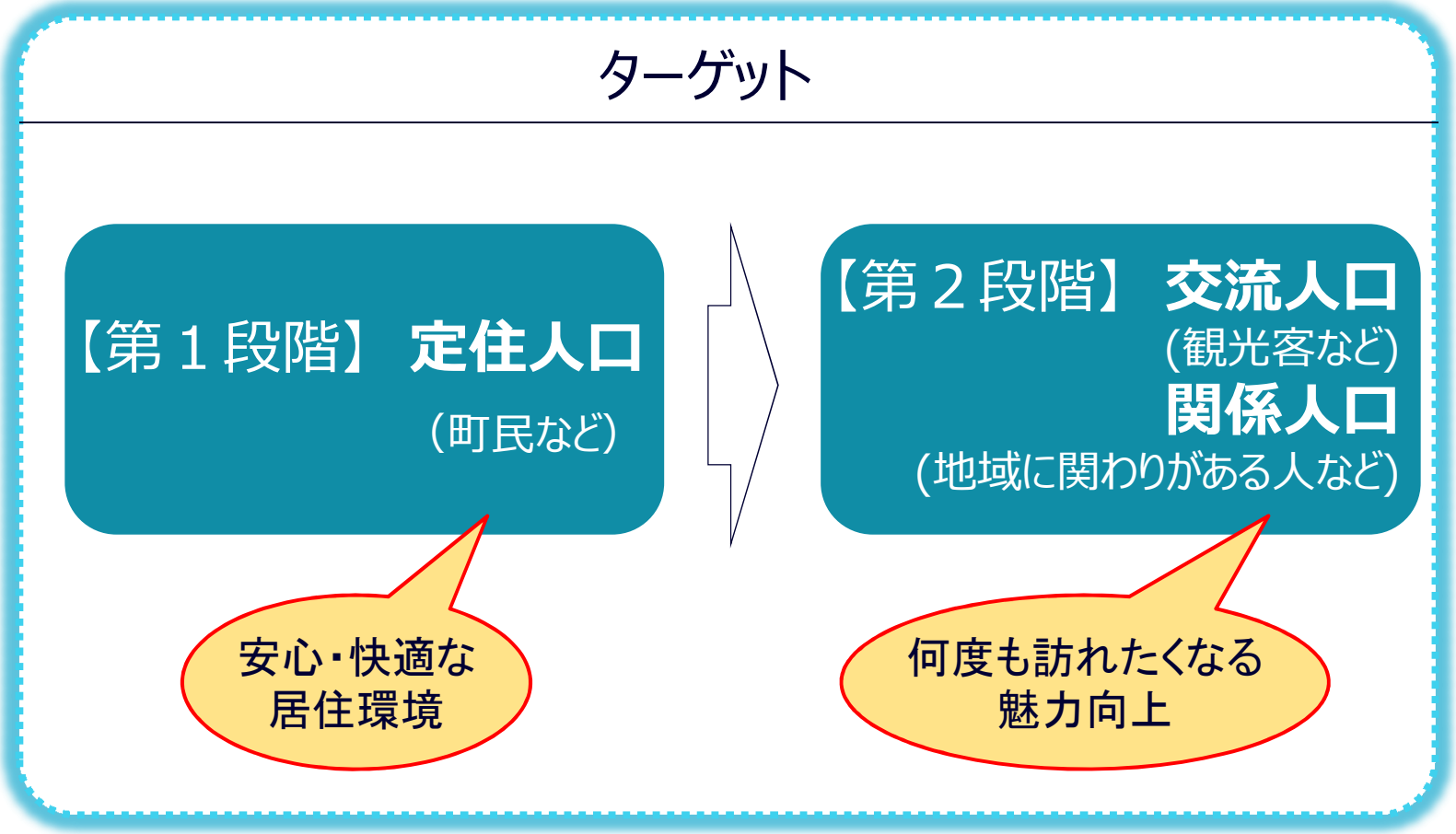
そこで、まちなかを中心とする範囲において本計画を策定することとします。





■今後のまちづくりにおけるターゲット

大子まちなかビジョンにおける今後のまちづくりのターゲットは、『定住人口』及び『交流人口、関係人口』とし、第１段階で『定住人口』（町民など）が安心して快適に暮らせるような居住環境を整備することで、第２段階として『交流人口、関係人口』（観光客や地域に関わるがある人など）が訪れたくなるようなまちなかの魅力向上を目指します。



■大子まちなかビジョンのテーマ・方針

大子町では、第6次大子町総合計画の中で、町全体の将来像を「魅力あるストーリーで 新しいまちの景色を創り未来へつなぐ DAIGO」とし、5つの目標を掲げています。大子まちなかビジョンは、この将来像や目標を踏まえつつ、まちなかにおける方針を設定します。

【第6次大子町総合計画】

【将来像】

魅力あるストーリーで 新しいまちの景色を創り 未来へつなぐ ＤＡＩＧＯ

【5つの目標】

（1）誰もが安心・安全に暮らせる思いやりに満ちたまちづくり

（2）未来を担う心豊かな人を育むまちづくり

（3）元気、にぎわい、活力ある産業を創造するまちづくり

（4）地域の資源を紡ぎ、町のストーリーとして発信するまちづくり

（5）交流と協働による、魅力あふれ、健全で持続可能なまちづくり

【テーマ・方針】

【テーマ】

防災力の強化と賑わいをつくる「大子まちなかビジョン」

【方針】

方針１
防災力のあるまちづくり

方針2
賑わいのあるまちづくり

方針3
周辺と連携したまちづくり

（１）大子まちなかビジョンについて

■まちづくり方向性

「災害に強く、町民が安全かつ安心に暮らせる環境づくりと交流人口の拡大及び賑わいづくり、駅や役場、道の駅などの拠点間の連携強化を図る」大子まちなかビジョン（案）を具現化するため、まちづくりの方針に基づいて以下の施策を計画します。

【まちづくりの方針】

防災力のあるまちづくり

町民や事業者などの安全安心を確保するための災害からの復旧・復興や減災・防災により、**市街地の防災機能を強化**します。

賑わいのあるまちづくり

町民や観光客・来訪者が自然に集まるための拠点性向上や機能集積により、**まちなかの賑わいを創出**します。

周辺と連携したまちづくり

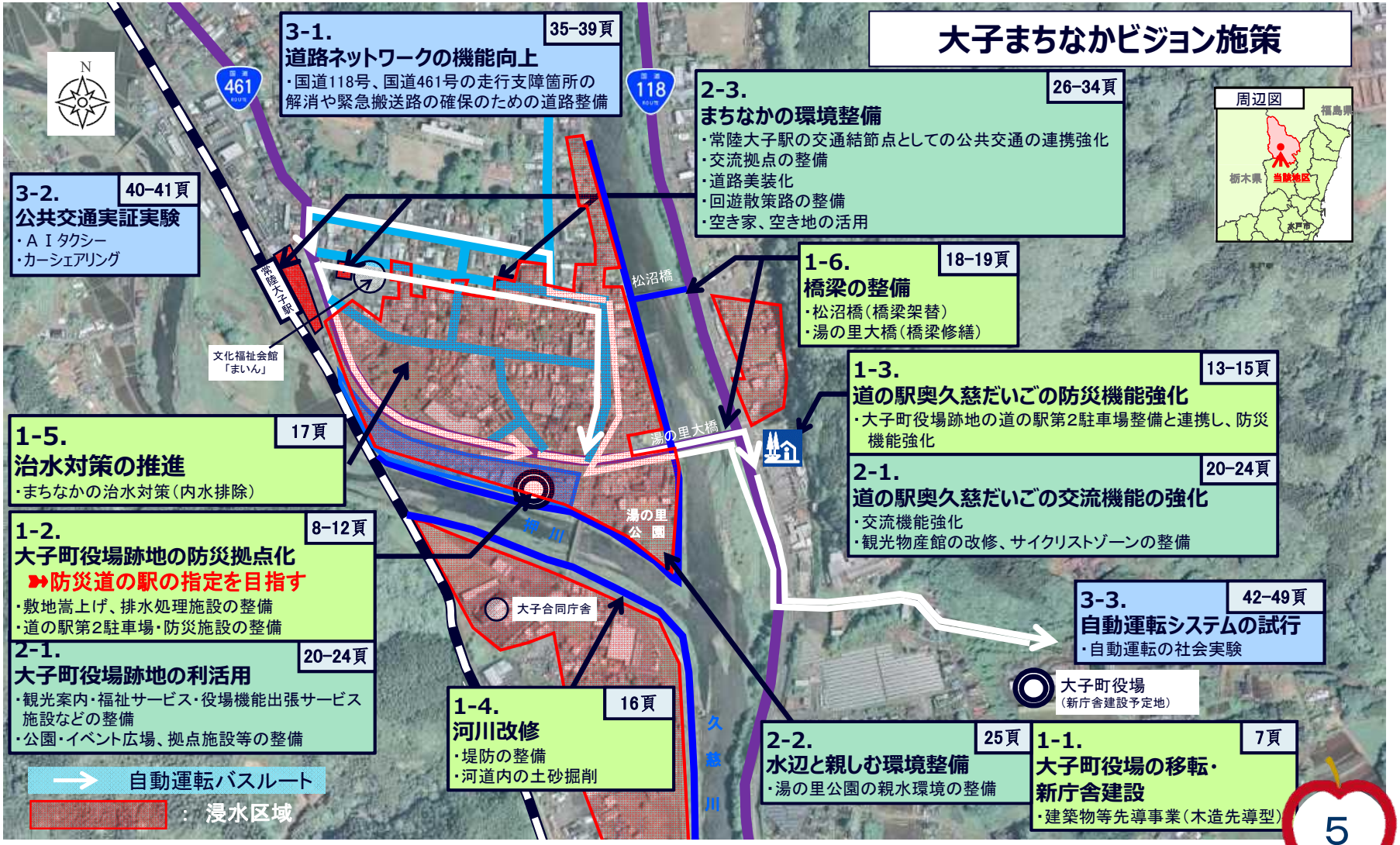
発災時の交通手段、円滑で快適な移動、交流促進のための総合的な交通環境の拡充により、**町内外の連携を強化**します。

【施策の柱】

- 持続性のある町民サービス拠点となる
  「大子町役場の移転・新庁舎建設」
- 発災時の円滑なまちの復旧を支える
  「役場跡地の防災拠点化」
- 「防災道の駅」としての
  「道の駅奥久慈だいごの防災機能強化」
- 災害からの復旧・復興に向けた
  「久慈川緊急治水対策プロジェクトの推進」
- 公有地のストックを生かした
  「大子町役場跡地の利活用」
- まちの交通、交流の拠点となる
  「道の駅奥久慈だいごの交流機能強化」
- 安全安心と魅力的な水辺環境のための
  「水辺と親しむ河川整備」
- まちなかのにぎわい創出のため
  「まちなかの環境整備」
- 駅や役場などの拠点間を円滑に連絡する
  「自動運転システムの試行」
- 町内外との交流や連携を支える
  「道路ネットワークの機能向上」

■大子町中心市街における取り組み

方針１　防災力のあるまちづくり　**方針２　賑わいのあるまちづくり**　**方針３　周辺と連携したまちづくり**



■まちづくりの施策とターゲット

まちづくりの方針	施策	主なターゲット	議事（頁）
方針１ 防災力のあるまちづくり	・大子町役場の移転・新庁舎建設	【第１段階】 定住人口 （町民など） 【第２段階】 交流人口 （観光客など） 関係人口 （地域に関わりがある人など）	7頁
	・大子町役場跡地の防災拠点化 ・道の駅奥久慈だいごの防災機能強化		8~15頁
	・河川改修 ・治水対策の推進 ・橋梁の整備		16~19頁
方針２ 賑わいのあるまちづくり	・大子町役場跡地の利活用（交流機能） ・道の駅奥久慈だいごの交流機能強化		20~24頁
	・水辺と親しむ環境整備		25頁
	・まちなかの環境整備		26~34頁
方針３ 周辺と連携したまちづくり	・道路ネットワークの機能向上		35~39頁
	・公共交通実証実験 ・自動運転システムの試行		40~49頁

（2）施策の内容と整備の方向性について

方針１　防災力のあるまちづくり

1-1.大子町役場の移転・新庁舎建設

大子町では、新庁舎の高台移転を決定しました。令和2年度末から建築工事に着手し、令和4年度に供用開始する計画で新庁舎建設を進めています。

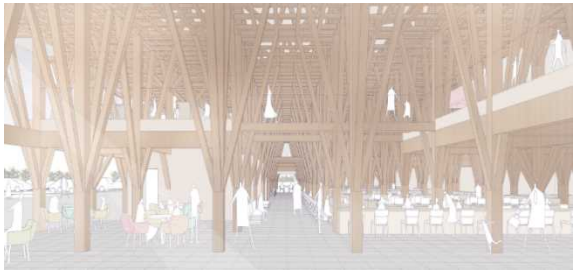
敷地概要

・計画地：大子町大字北田気
　　字上ノ原662番地外
・敷地面積：約23,500㎡
・区域指定：都市計画区域内
　　非線引区域
・用途地域：指定なし

建築概要

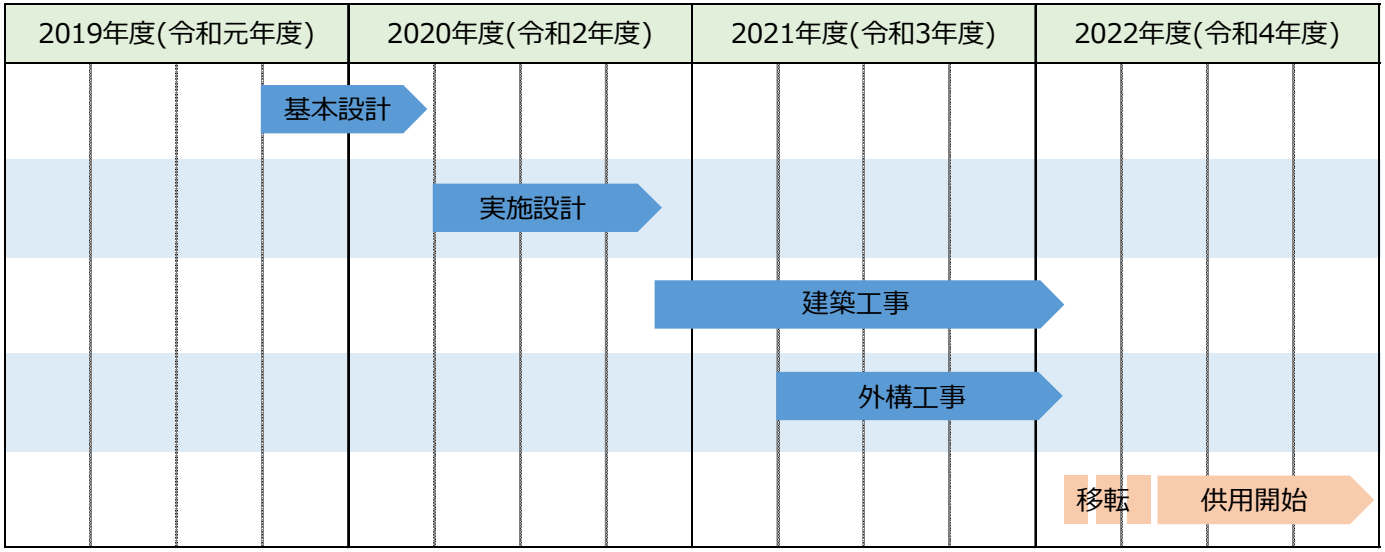
・主要用途：庁舎
・構造種別：木造(直接基礎)
・耐火種別：準耐火建築物
　　(45分)
・階　　数：地上2階建て
・高　　さ：8.955m

大子町新庁舎内観イメージ



「©株式会社遠藤克彦建築研究所」

スケジュール



2022年度(令和4年度)の新庁舎の供用開始を目指し進めています。

※現時点におけるスケジュールであり、工事の進捗により変更が生じることがあります。

1-2.大子町役場跡地の防災拠点化（跡地活用方針）

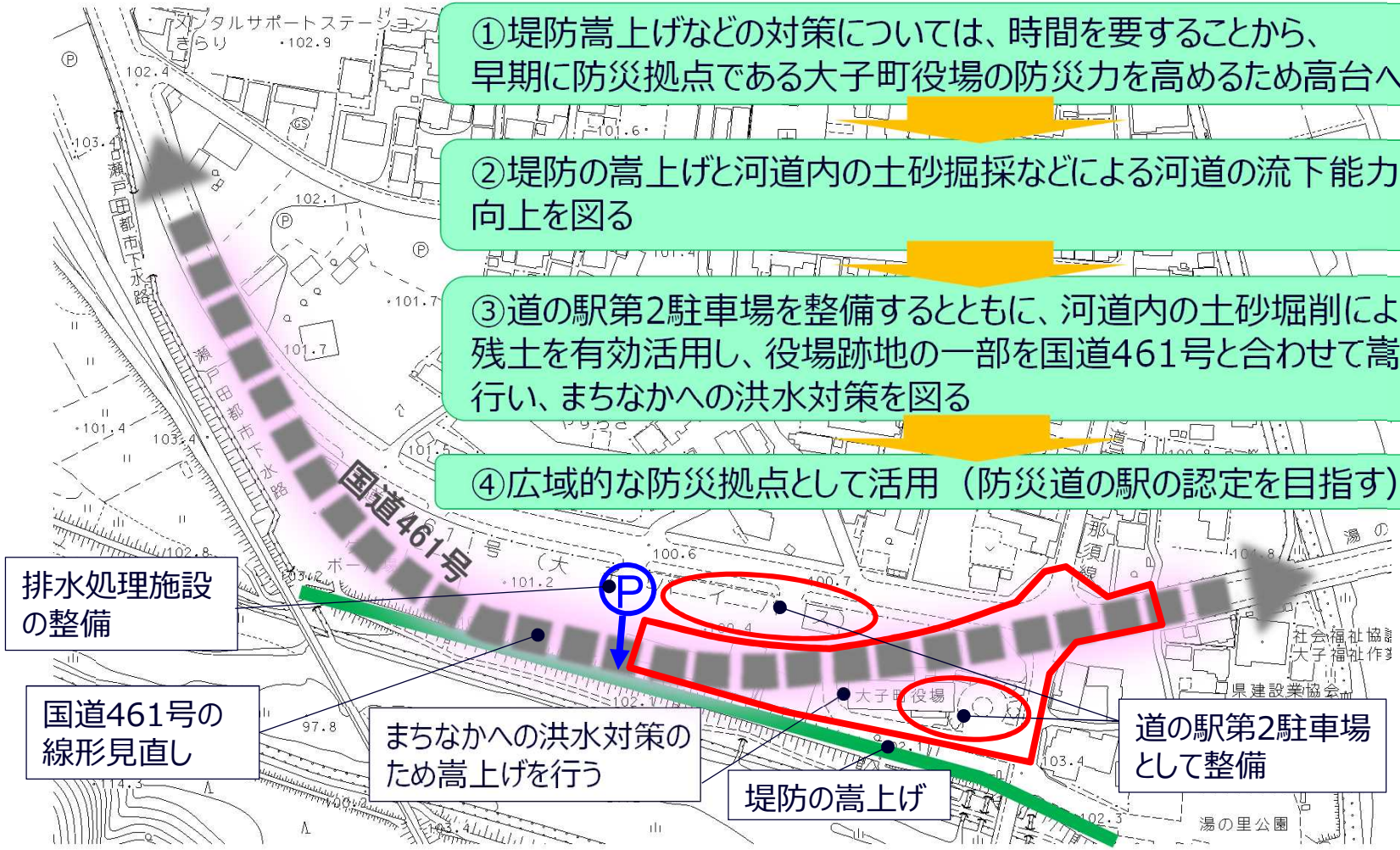
大子町役場跡地については、道の駅奥久慈だいごの第2駐車場として整備するとともに、堤防の嵩上げ計画との整備を図り、一部のエリアを国道461号と合わせて嵩上げし、広域的な防災拠点として活用します。

①堤防嵩上げなどの対策については、時間を要することから、早期に防災拠点である大子町役場の防災力を高めるため高台へ移転

②堤防の嵩上げと河道内の土砂掘採などによる河道の流下能力の向上を図る

③道の駅第2駐車場を整備するとともに、河道内の土砂堀削による残土を有効活用し、役場跡地の一部を国道461号と合わせて嵩上げを行い、まちなかへの洪水対策を図る

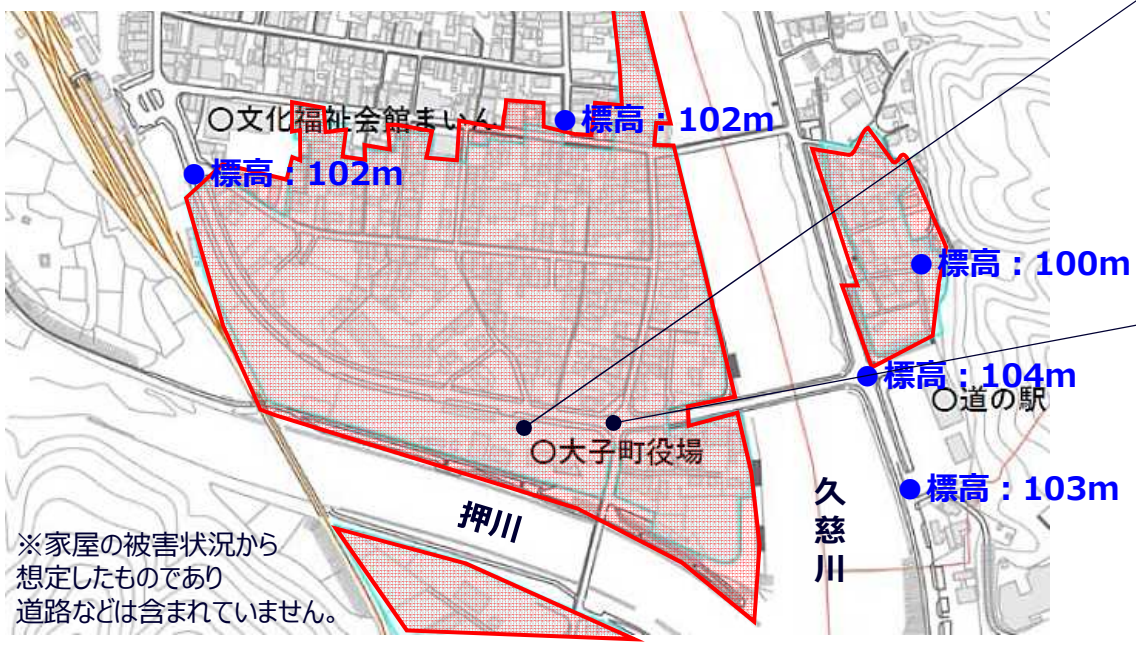
④広域的な防災拠点として活用（防災道の駅の認定を目指す）



1-2.大子町役場跡地の防災拠点化（被災状況）

令和元年台風第19号により、久慈川と押川の合流部を付近の標高102mより低い地域を中心に浸水被害を受けています。

令和元年台風第19号による被害状況





FMだいご



国道461号
（大子町役場前交差点付近）

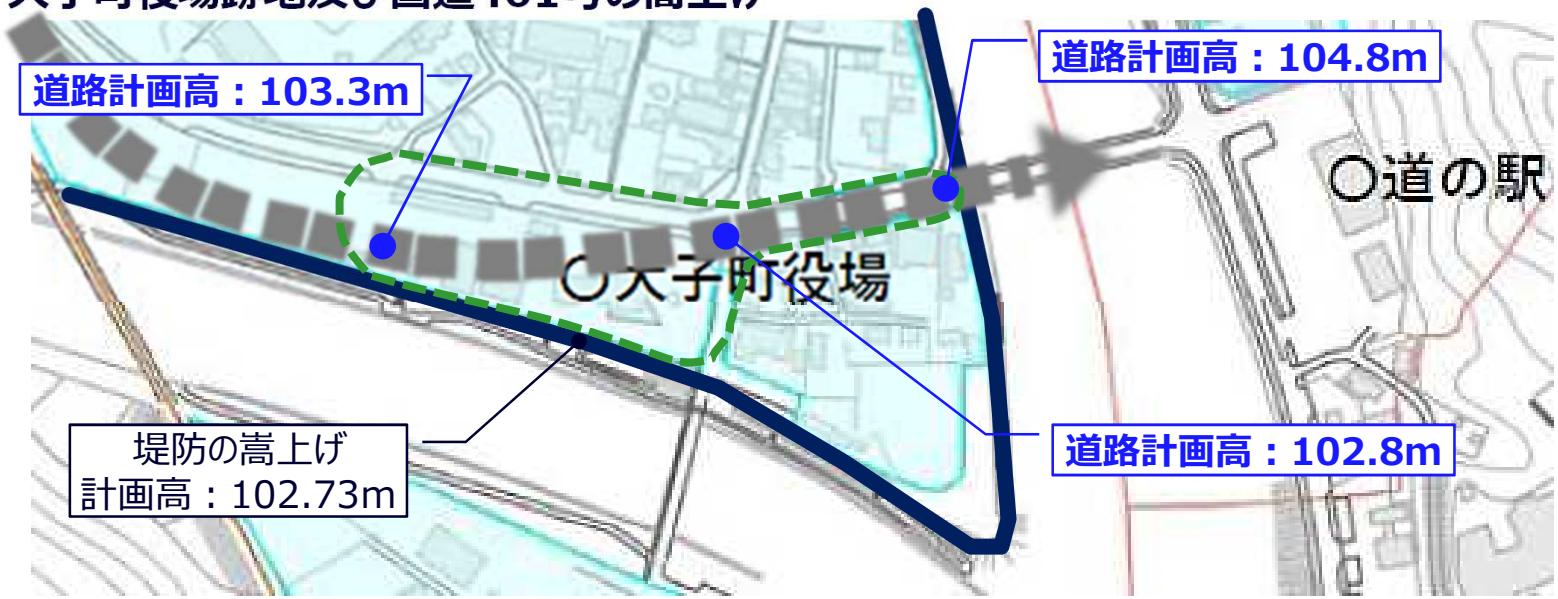
人的被害
死亡：1名　中等症：1名　合計：2名
建物（住家）の被害状況
全壊：35棟　大規模半壊：107棟 半壊：307棟　一部損壊：139棟 合計：588棟
公共施設の被害状況（役場のみ抜粋）
大子町役場　：地階、第一分室1階、 第二分室、公用車21台浸水

令和元年台風第19号による浸水被害は、概ね標高102m以下となっており、同程度の浸水被害を防ぐためには、標高102m以上とする必要があります。

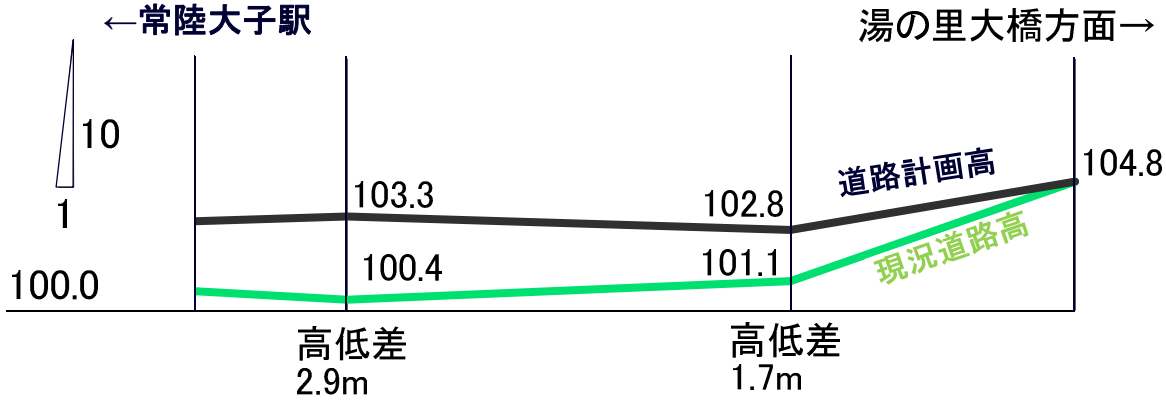
1-2.大子町役場跡地の防災拠点化（嵩上げ条件設定）

令和元年台風第19号の被災状況を踏まえ、大子町役場跡地及び国道461号の嵩上げ高を押川の堤防の嵩上げ高よりも高くなるように計画します。

大子町役場跡地及び国道461号の嵩上げ



【国道461号　縦断図】

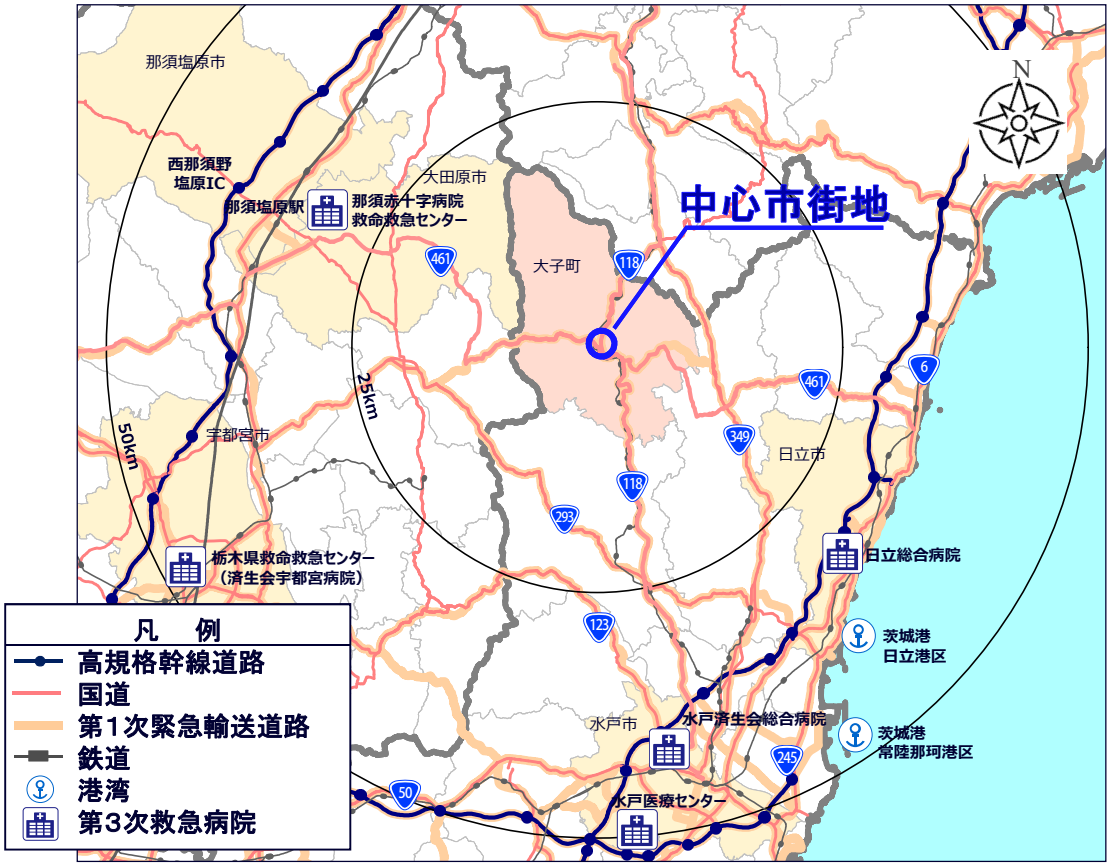


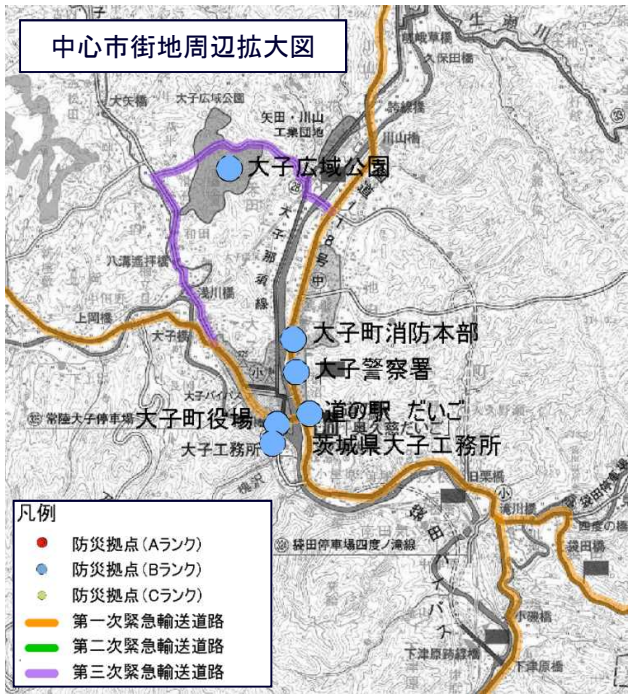
国道461号は、押川の堤防嵩上げ高：102.73mよりも高くなるように計画高を設定します。

1-2.大子町役場跡地の防災拠点化（緊急輸送路など）

緊急輸送道路ネットワーク計画は、大規模災害時において、人命にかかわる救援支援活動や物資輸送活動などの緊急輸送を円滑に行う上で、防災拠点間を相互に連絡できるように位置づけています。

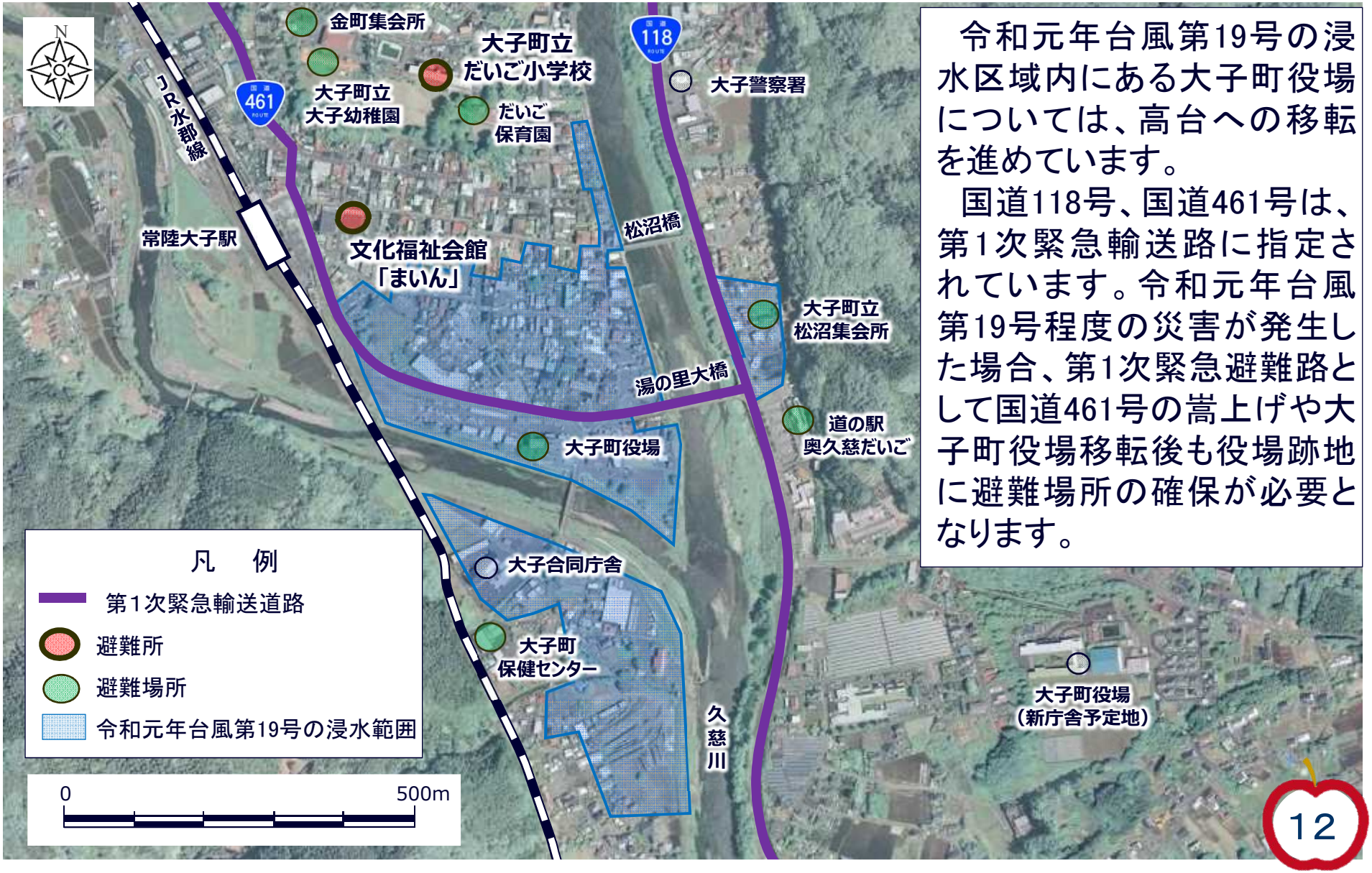
大子町では、第1次緊急輸送道路として国道118号、国道461号、防災拠点（Bランク）として大子町役場、道の駅奥久慈だいごなどが指定されています。





【防災拠点】
Aランク:特に重要な防災拠点
（県庁、重要港湾、空港、災害拠点病院など）
Bランク:重要な防災拠点
（市町村役場、指定行政機関、港湾、自衛隊など）
Cランク:その他の防災拠点
（運輸機関、指定公共機関、救急告示医療機関など）

1-2.大子町役場跡地の防災拠点化（避難場所など）



令和元年台風第19号の浸水区域内にある大子町役場については、高台への移転を進めています。

国道118号、国道461号は、第1次緊急輸送路に指定されています。令和元年台風第19号程度の災害が発生した場合、第1次緊急避難路として国道461号の嵩上げや大子町役場移転後も役場跡地に避難場所の確保が必要となります。

1-3.道の駅奥久慈だいごの防災機能強化（防災道の駅）

県北地域における広域防災拠点として、既存の道の駅については、土砂災害特別警戒区域に対する対策を行うとともに役場跡地の一部に整備予定の第2駐車場との一体的な利活用を図り、防災道の駅の認定に必要となる各種機能・施設・体制を整える計画です。



【土砂災害特別警戒区域に対する対策施設例】



	防災道の駅認定要件（例）	道の駅奥久慈だいご	
		既存	第２駐車場
計画	茨城県の地域防災計画及び新広域道路交通計画に広域的な防災拠点として位置づけられていること	位置づけを行う	
施設	建物の耐震化、無停電化、通信や水の確保などの災害時におけても実施可能な施設となっていること	○（一部未整備）	施設を整備
	災害時の支援活動に必要なスペースとして、2,500 ㎡ 以上の駐車場を備えていること	○（3,770㎡）	駐車場を整備（約4,000㎡）
体制	道の駅の設置者である市町村と道路管理者の役割分担などが定まったＢＣＰ（業務継続計画）が策定されていること	体制を整備	

設備や体制が整っていない場合、今後３年程度で必要な機能、施設、体制を整えるための具体的な計画があること。

1-3.道の駅奥久慈だいごの防災機能強化（整備内容）

道の駅（役場跡地）は、敷地の嵩上や各種防災施設整備などによる防災機能強化を図り、防災道の駅の認定を目指します。また、道の駅（既存）は、土砂災害特別警戒区域に対する対策として重力式擁壁工などの対策を実施し防災機能を強化します。

◇道の駅（役場跡地）
【防災】
・敷地の嵩上げなどによる防災機能強化
（防災道の駅の認定を目指す。）

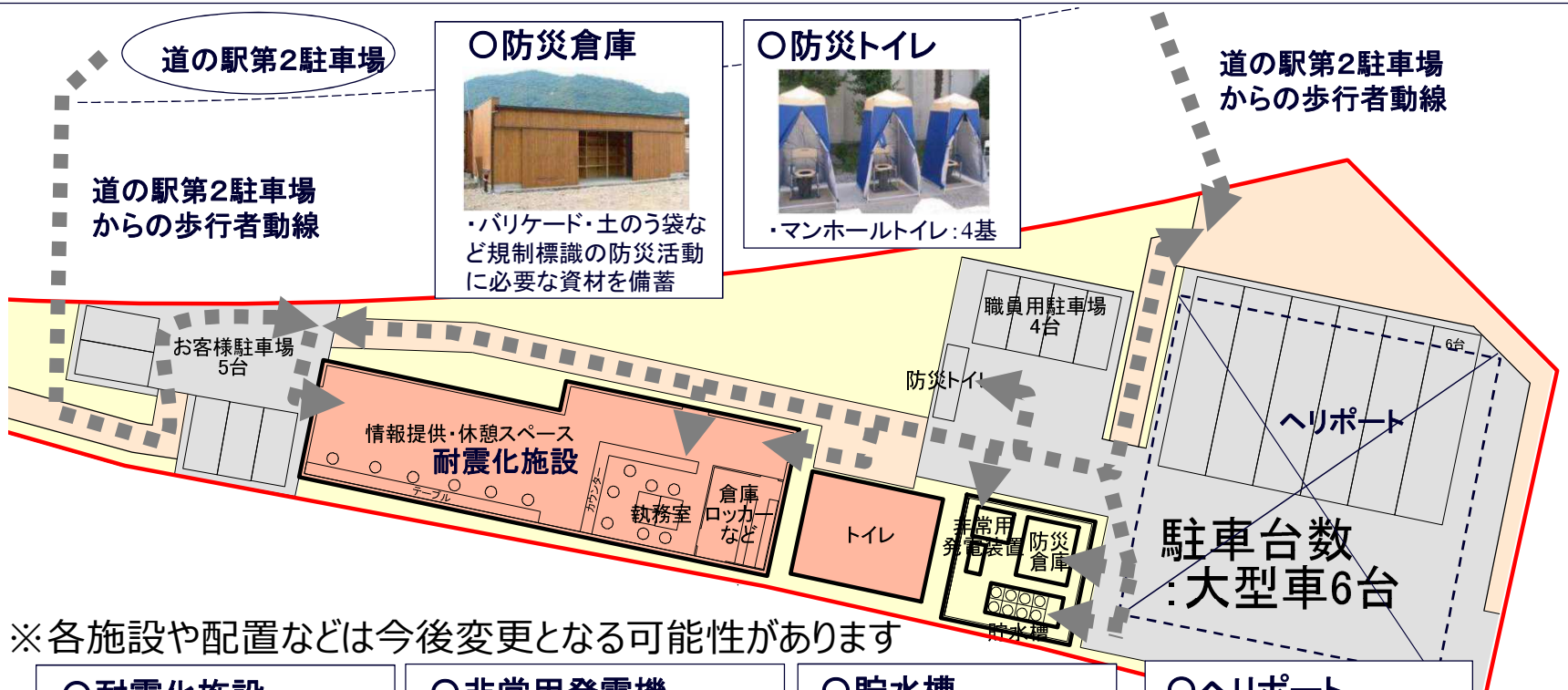
◇道の駅（既存）
【防災】
・土砂災害特別警戒区域に対する対策（擁壁整備など）



※各施設や配置などは今後変更となる可能性があります。

1-3.道の駅奥久慈だいごの防災機能強化（計画案）

防災道の駅への認定に向けて、耐震化施設や非常用発電機、貯水槽、ヘリポート、防災倉庫、防災トイレなどの整備を行います。



※各施設や配置などは今後変更となる可能性があります

○耐震化施設



・平時は町で活用し、災害時は町・県・国で、災害対策室として活用

○非常用発電機



・既設非常用発電機と連携し災害活動スペースの照明などへの電源15時間(5H×3日分)150L）を確保

○貯水槽

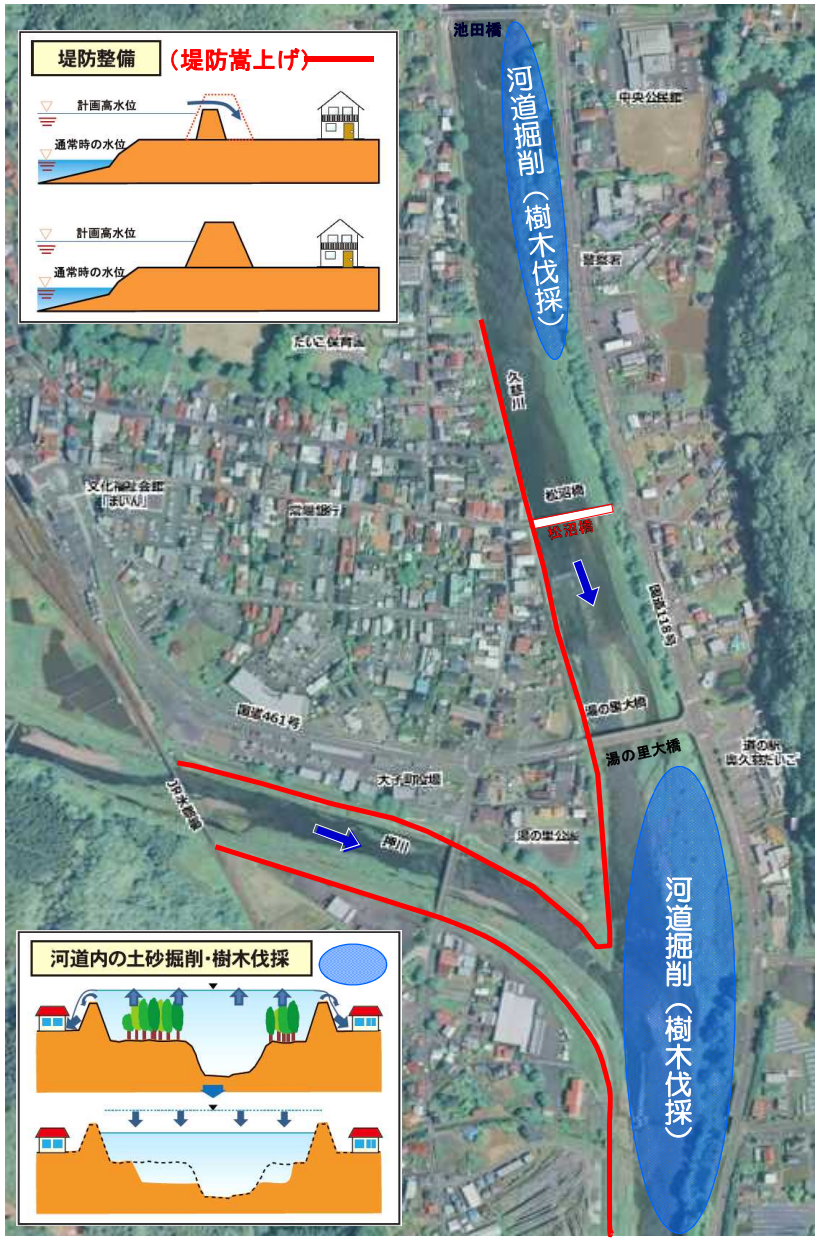


・タンク容量：10㎥
・防災活動要員100人で3日分に対応

○ヘリポート



着陸帯大きさ：L=20m×W20m



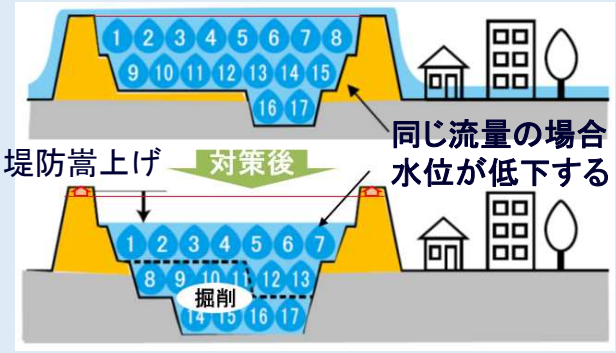
1-4.河川改修

「久慈川緊急治水対策プロジェクト（大子市街地周辺）」Ｒ６年度迄(国交省担当)

↓

河道の流下能力の向上

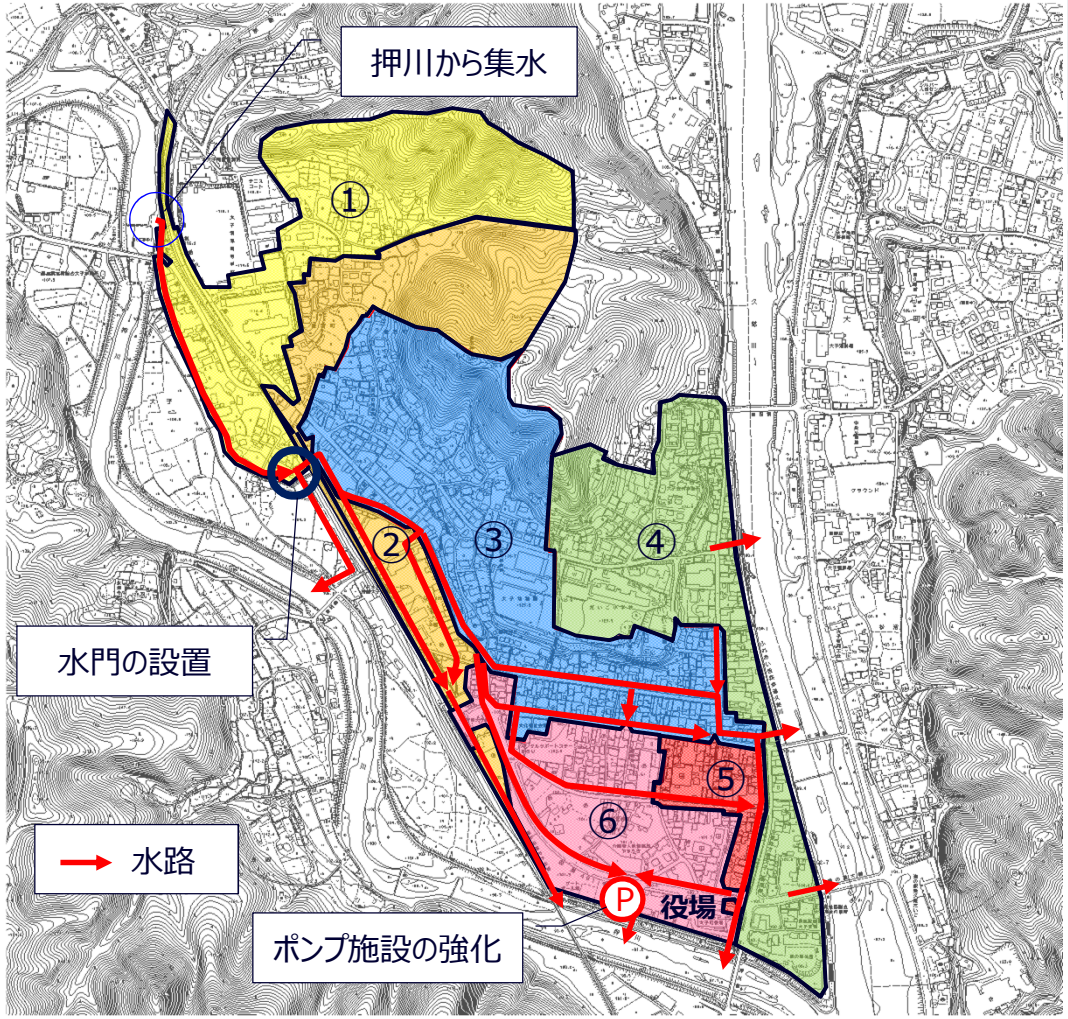
堤防の嵩上げと河道掘削により、河道の流下能力が向上する（越水を回避できる）



今後の予定	
・堤防嵩上げ	Ｒ３年度着手（橋梁前後除く）
・河道掘削（樹木伐採）	Ｒ３年度早期着手（民有地除く）
・松沼橋架替	Ｒ３年度　旧橋撤去工事に着手 Ｒ４年度　新橋工事に着手

1-5.治水対策の推進

まちなかの治水対策は、水路の改修により、集水区域の雨水を6区域で分散処理することや区域内にある既存のポンプ施設の能力強化を図ることにより、災害に強い地域を目指します。



現状では、水路の流末が低地となる大子町役場周辺に集中しているため、まちなかに降った雨水の多くが当該区域に流入し、たびたび浸水被害をもたらしています。

まちなかの雨水については、新たに水門や圧縮管を設け、６区域でそれぞれ分散処理します。そして、大子町役場周辺にある流末の負荷を軽減することで、浸水被害の防止を図ります。
（上流域の水門については、令和3年度測量設計予定）



排水処理施施設イメージ

【ポンプ施設の強化】
既存：1台　10m^3/min
計画：2台　15m^3/min

1-6.橋梁の整備（国道461号湯の里大橋）

国道461号 湯の里大橋の耐震補強とデザイン化を進めています。



＜デザインコンセプト＞　大子町の豊かな自然を活かしたデザイン

【橋面改築によるデザインの方向性】

- 周辺の自然環境や、さまざまな活動でにぎわう河川空間を引き立たせるよう、**横断防止柵や舗装材の存在感を抑え、シンプルな仕上げ**とする。
- **自然的な風景に合う素材**を選定、**地元の八溝杉**などの活用も検討する。

1-6.橋梁の整備（国道461号湯の里大橋）

＜デザインコンセプト＞

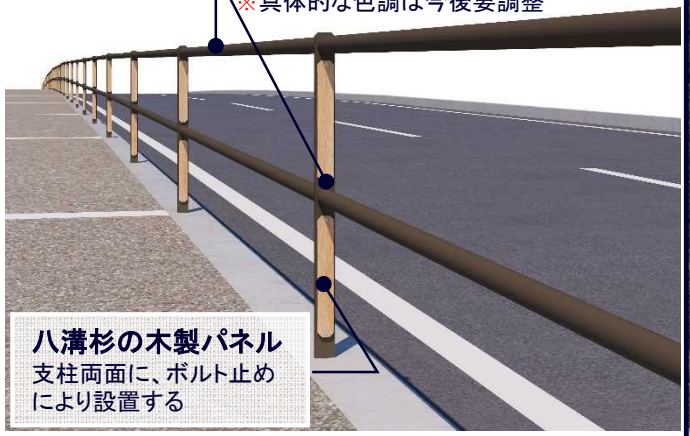
大子町の豊かな自然を活かしたデザイン

周辺の自然環境や河川空間、人々が往来する様子を引き立たせるよう、
横断防止柵や舗装材の存在感を抑え、シンプルな仕上げとする

横断防止柵
鋳鉄製＋木製パネル

歩道舗装材
天然石洗い出し樹脂舗装

【横断防止柵】



※木材パネルの定期交換を、地元小学生の実地教育の一環に組み込むことも検討。**美観維持と教育訓練上の効果が期待**できる。

方針2　賑わいのあるまちづくり

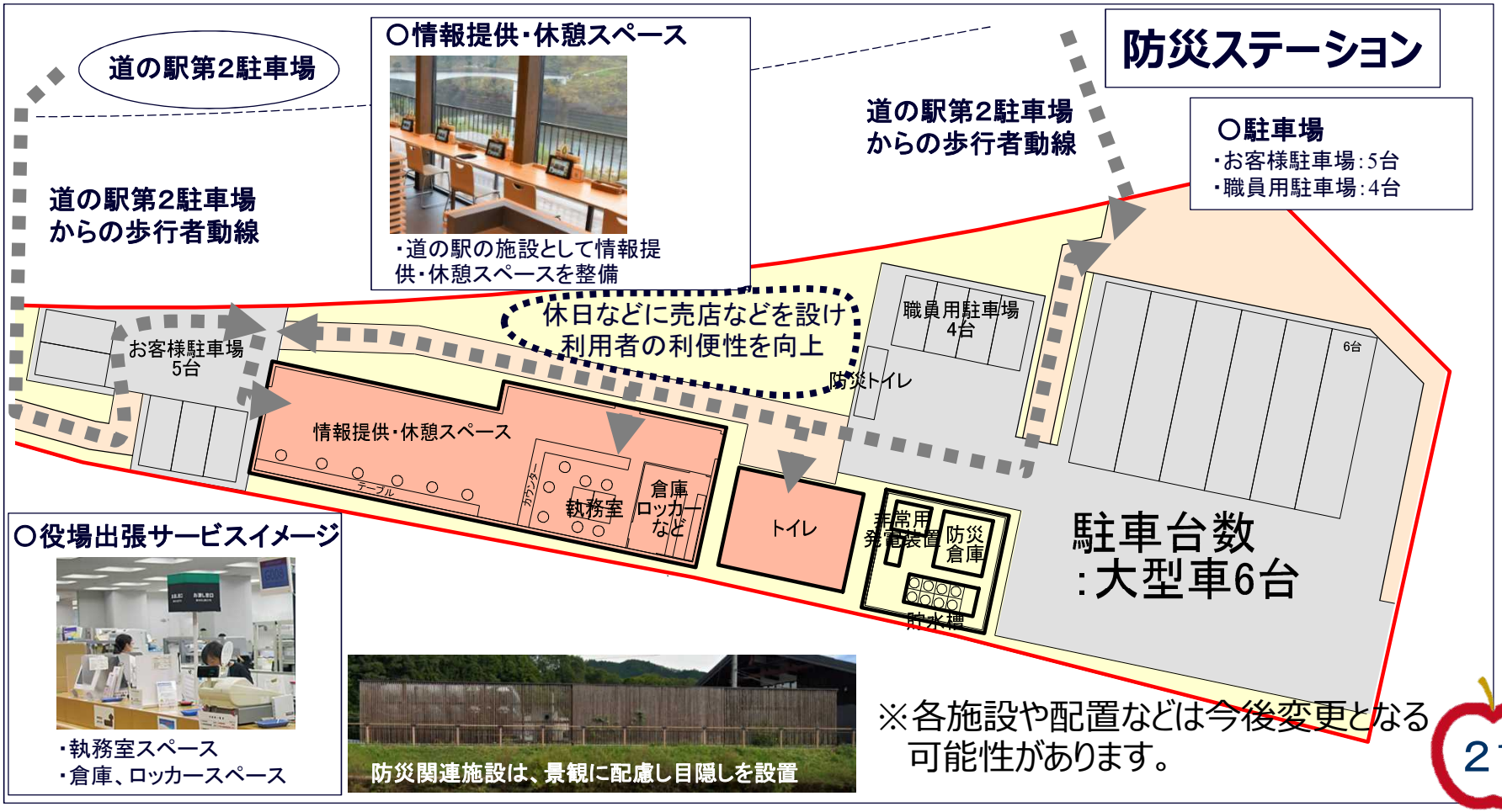
2-1.大子町役場跡地の利活用（交流機能）
道の駅奥久慈だいごの交流機能強化（整備内容）

道の駅（役場跡地）は、防災ステーションの整備（観光案内・福祉サービス・役場機能出張サービス施設など、情報発信、駐車場整備）、道の駅（既存）は、既存施設の改修（サイクリング環境の充実）や拡張整備（広場などの整備）により交流機能の強化を図ります。



2-1.大子町役場跡地の利活用（交流機能）
道の駅奥久慈だいごの交流機能強化（計画案）

道の駅(役場跡地)は、第2駐車場の整備や防災ステーション(情報提供・休憩スペース、観光案内・福祉サービス・役場機能出張サービス施設などのスペース)の整備により、既存の道の駅と連携した機能強化や町役場の移転に伴う行政サービスの維持を図ります。



※各施設や配置などは今後変更となる可能性があります。

2-1.大子町役場跡地の利活用（交流機能）
道の駅奥久慈だいごの交流機能強化（拡張整備）

道の駅(既存)の隣接地に機能強化のための拡張整備を行います。広場の整備や足湯などの施設整備を行い交流機能の強化を図ります。



※各施設や配置などは今後変更となる可能性があります。

2-1.大子町役場跡地の利活用（交流機能）
道の駅奥久慈だいごの交流機能強化（レンタサイクル）

茨城県では「いばらき自転車ネットワーク計画」を策定し、県北地域を縦断するモデルコースとして「奥久慈里山ヒルクライムルート」を認定しています。大子町では、道の駅に「奥久慈サイクルステーション」を設置し、Eバイクを中心としたレンタサイクル事業を開始するなど特定目的型の旅行者の誘客を推進し観光振興を図っています。

◇サイクリング環境の充実

道の駅奥久慈だいごの「奥久慈サイクルステーション」に31台のレンタサイクルを配備し、奥久慈里山ヒルクライムルートに標識などを設置します。







◇奥久慈里山ヒルクライムルート

「いばらき自転車ネットワーク計画／2019年3月策定」において、広域のサイクリングや日常交通のネットワークを構成する路線として選定された県内モデルルートの１つ。

奥久慈里山ルートは県北地域を縦断する約185キロのコースで上級者向けのコース。





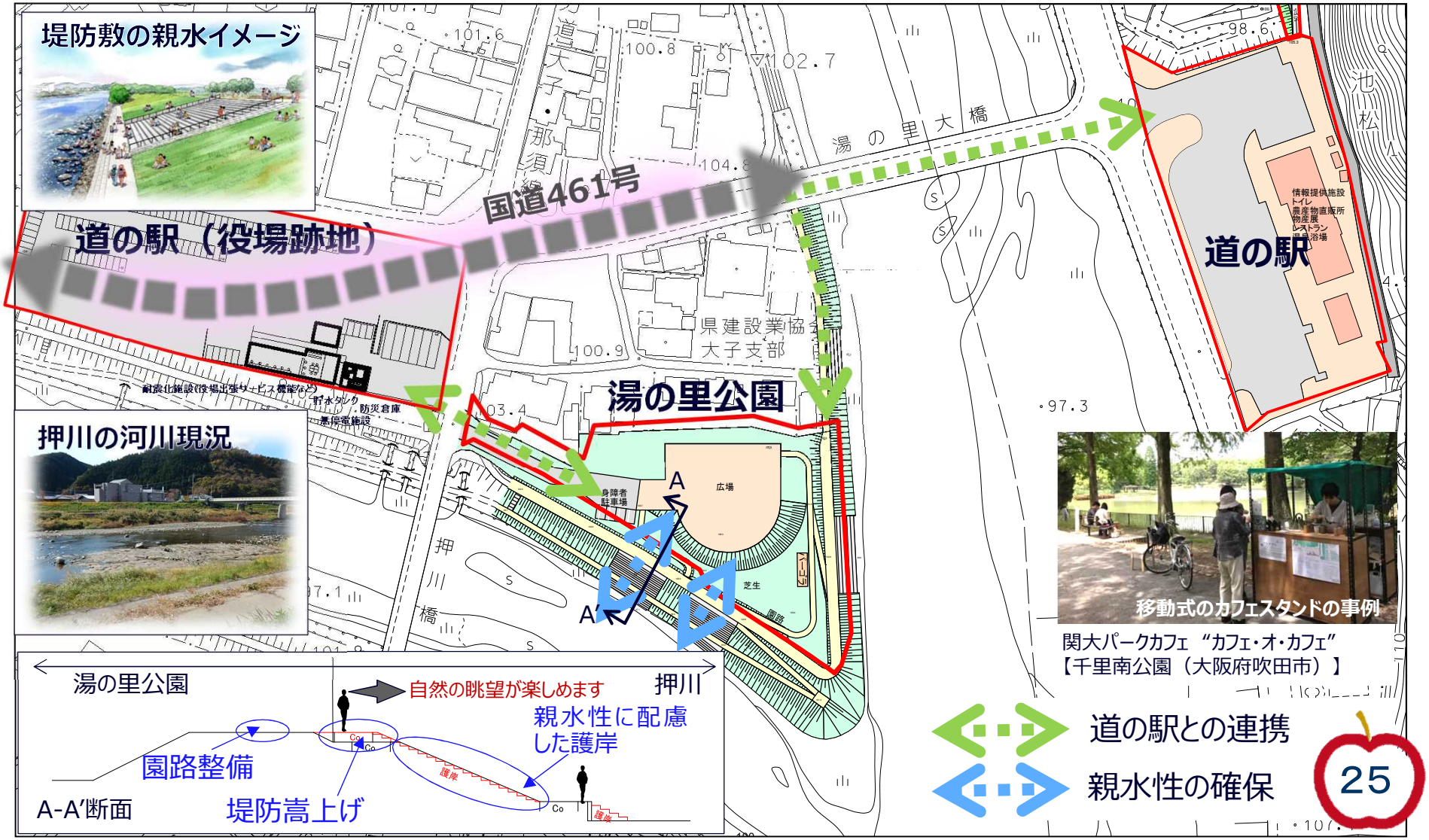
2-1.大子町役場跡地の利活用（交流機能）
交流広場の整備

大子町では、大子町役場跡地の利活用計画として、まちなかの治水対策のための調整池など（広場兼用）の排水施設やイベントを開催するため広場やステージを計画するとともに若者向けのスケートボード広場などを計画し、賑わいの創出につなげます。



2-2.水辺と親しむ環境整備（湯の里公園の整備）

大子町では、久慈川、押川の堤防の嵩上げにあわせ、湯の里公園の親水性を高めるとともに道の駅との連携強化により、観光客や町民が集える広場づくりを目指します。



2-3.まちなかの環境整備（まちなかの地域資源）

大子町のまちなかには、神社仏閣や文化資源、自然資源、歴史的な建築物、まちなかアートなどの様々な地域資源があり、これらを有効活用した地域づくりを進めています。

■神社仏閣
①十二所神社





（百段階段でひな祭り）
②蒟蒻神社
③愛宕神社
④永源寺（もみじ寺）



⑤鹿嶋神社



■文化資源
⑥根本正胸像
⑦根本正台座
⑧義公日光遥拝記念碑
⑨俳人・松尾芭蕉の句碑

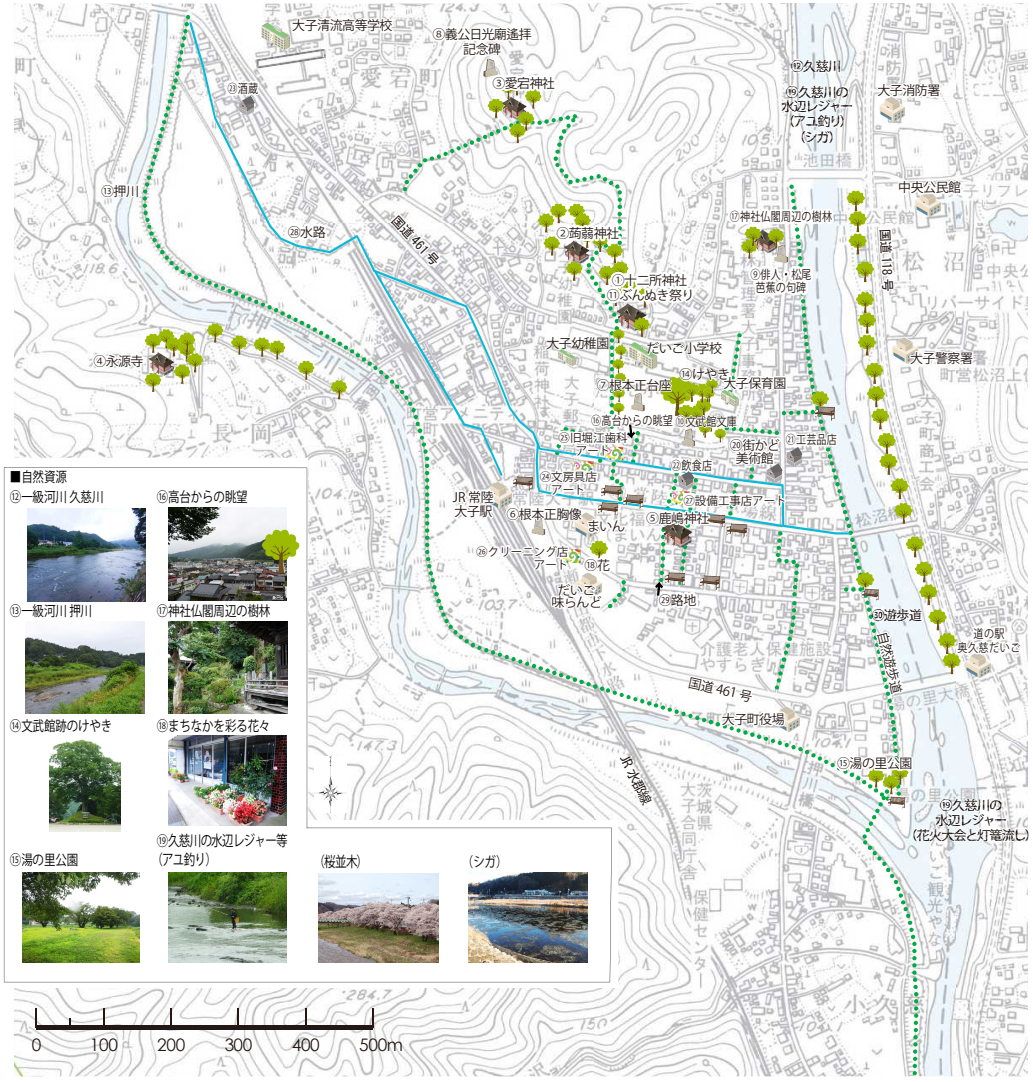


⑩文武館文庫



⑪地域のお祭り
（十二所神社春季例大祭ぶんぬき祭り）





■自然資源
⑫一級河川 久慈川

⑯高台からの眺望

⑬一級河川 押川

⑰神社仏閣周辺の樹林

⑭文武館跡のけやき

⑱まちなかを彩る花々

⑮湯の里公園

⑲久慈川の水辺レジャー等（アユ釣り）

（桜並木）

（シガ）

地域資源マップ

■歴史的な建造物
⑳街かど美術館



㉒飲食店



㉑工芸品店



㉓酒蔵



■まちなかアート
㉔文房具店「Road」



㉖クリーニング店



㉕旧堀江歯科「Wireworks」



㉗設備工事店



■水路や路地
㉘水路



㉚久慈川沿いの自然遊歩道



㉙路地





凡例
神社仏閣
文化資源
自然資源
歴史的な建造物
教育施設
公共公益施設など
ベンチ
まちなかアート
水路(暗渠を含む)
路地・遊歩道

2-3.まちなかの環境整備（現在実施しているイベントなど）

大子町では、季節ごとに沢山のイベントを開催し、交流人口・関係人口の増加を目指します。



月	主なイベント・行事
4～6月	大子ぶんぬき祭（４年に１度） 常陸国 YOSAKOI祭り 奥久慈トレイルレース（歓迎会）
7～9月	鮎のつかみとり大会 大子町 花火大会と灯籠流し
10～12月	奥久慈大子まつり ハッピーハロウィン百段階段 キャンドルナイト&まちなかハロウィン
1～3月	みんなのまいん全員集合！ 百段階段でひなまつり 花嫁行列

他にも年４回開催される
『らっしゃい大子百円街』や
まちなか飲食店の飲み歩きイベント
『だいごお酒のイロハ』、大子まちなか
アートウィークなど沢山のイベントが
開催されています！

2-3.まちなかの環境整備（賑わい創出に向けた取り組み）

大子町では、住民意見などの聴取・反映により、これまでに実施したイベントの継続・拡大と地域資源を活かしたイベントの創出により、さらなる交流人口・関係人口の拡大につなげます。

以下に示す図面は、新庁舎建設町民ＷＳ（※）での参加者の意見をとりまとめたものとなります。

賑わい創出に向けた新たなインベント・行事（案）
※2018年11月に実施した第2回新庁舎建設町民WSの「ミライカレンダー」より作成



住民意見などの聴取・反映

これまでに実施してきたイベントの継続・拡大 × 地域資源を活かしたイベントの創出

交流人口・関係人口の拡大

！さらなる賑わいの創出！

今回実施した意向調査でのイベント開催意見

- 商店街でのイベントの開催
- 古本市、骨董市、参加型イベント、自然を利用したイベントの開催
- 特産品のアピールするイベントや空き家を活用したイベントなどの開催

2-3.まちなかの環境整備

まちなかについては、不足している施設・機能の改善（駅前広場、交流拠点、道路の美装化など）や地域資源を活かした環境整備（回遊散策路、空き地、空き家の活用など）を行います。



2-3.まちなかの環境整備（まちなかの地域資源）

大子町では、水郡線魅力向上の最大化を図るため、JR東日本水戸支社と連携協定を締結し、以下の各種施策を展開していくことで、大子町としての魅力向上を図ります。

アートによるまちづくり



水郡線駅舎アートコンペティション実施による交流人口の拡大、現地イベント等の実施

ふるさと納税連携



JREMALLふるさと納税連携による返礼品検討

交流人口＆関係人口



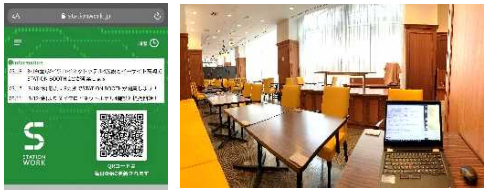
JR東日本グループ会社との連携による
モニターツアー、ワーケーションプラン等の検討

くらしづくり
（二次交通連携・キャッシュレス経済圏振興）



・カーシェアおよびレンタサイクル設置拡大
・Suica経済圏利用拡大

ワーケーション・シェアオフィス連携



・JR東日本が運営するシェアオフィスの予約システム導入を検討し町内施設を活用したワーケーション・ワークスペース等を検討

水郡線を活用した荷物輸送

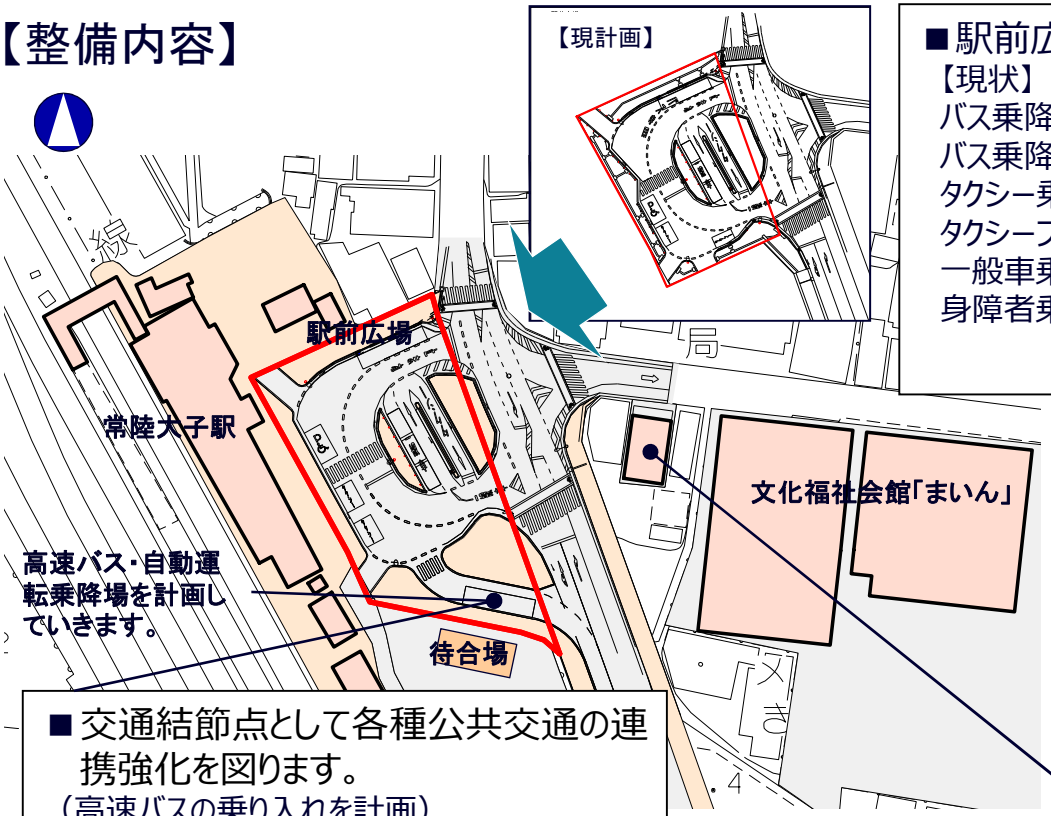


・大子町特産品流通拡大
・定期便化へ向けた実証実験

2-3.まちなかの環境整備（常陸大子駅の周辺整備）

駅前広場は、交通結節点として機能強化を図ります。（路線バス、高速バス、コミュニティバスなどの連携強化）また、交流拠点は、隣接する文化福祉会館「まいん」の補完的機能を有し、ミーティングルームの拡充や地元特産品を飾る展示ブースの整備など、多様な役割を兼ね備えた施設とすることで既存施設との相乗効果を図ります。

【整備内容】

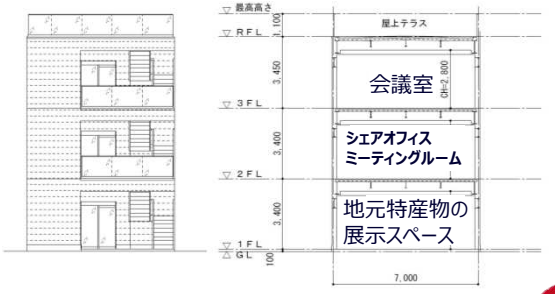


■交通結節点として各種公共交通の連携強化を図ります。
（高速バスの乗り入れを計画）

■駅前広場の機能

【現状】		【計画】
バス乗降場（路線バス）	：2台 →	1台
バス乗降場（高速バス）	：0台 →	1台
タクシー乗降場	：2台	
タクシープール	：2台	変更なし
一般車乗降場	：2台	
身障者乗降場	：1台	

■交流拠点　イメージ案

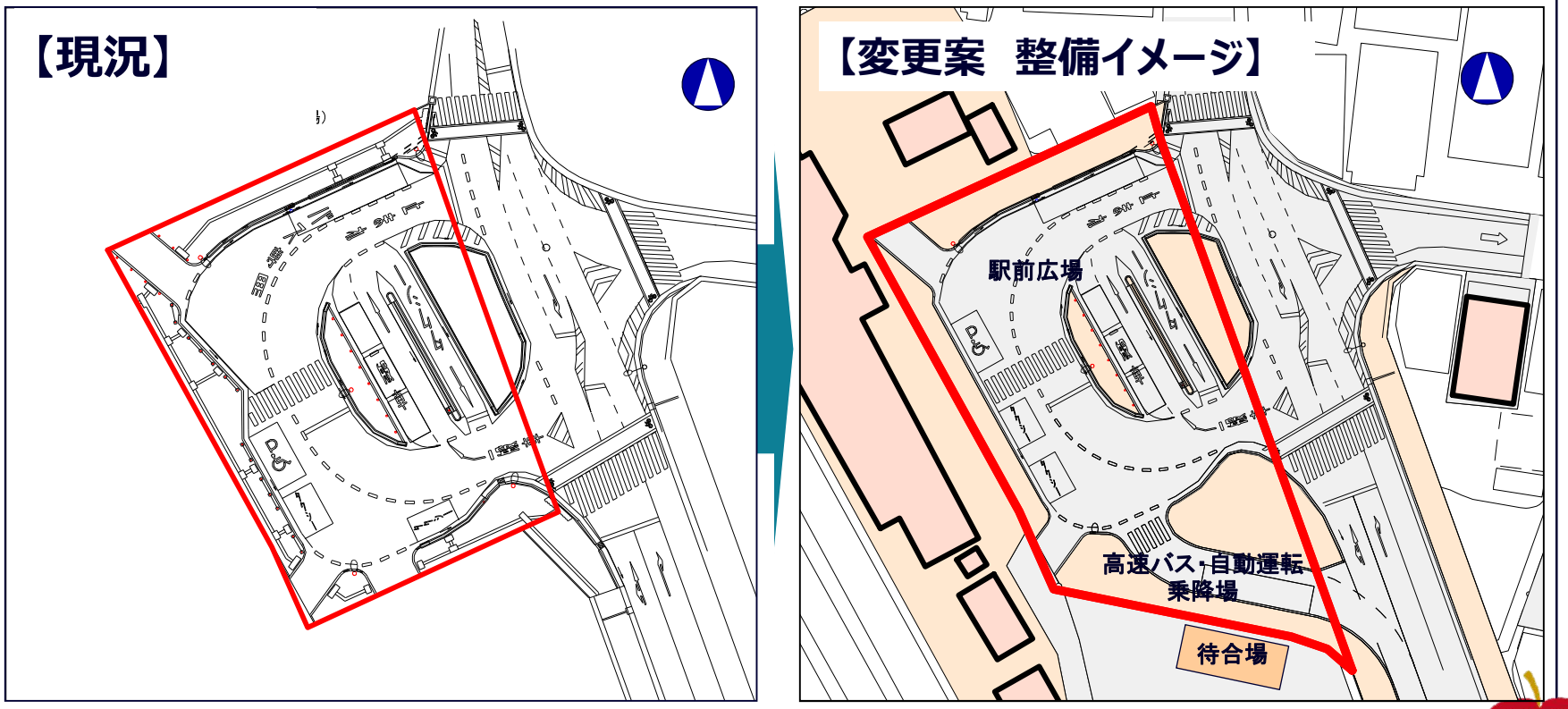


2-3.まちなかの環境整備（常陸大子駅の周辺整備）

駅前広場は、交通結節点としての機能強化のため、高速バスを常陸大子駅まで乗り入れるために高速バスの乗降場の設置を計画していきます。

また、自動運転システムの試行に対応した駅前広場を計画していきます。

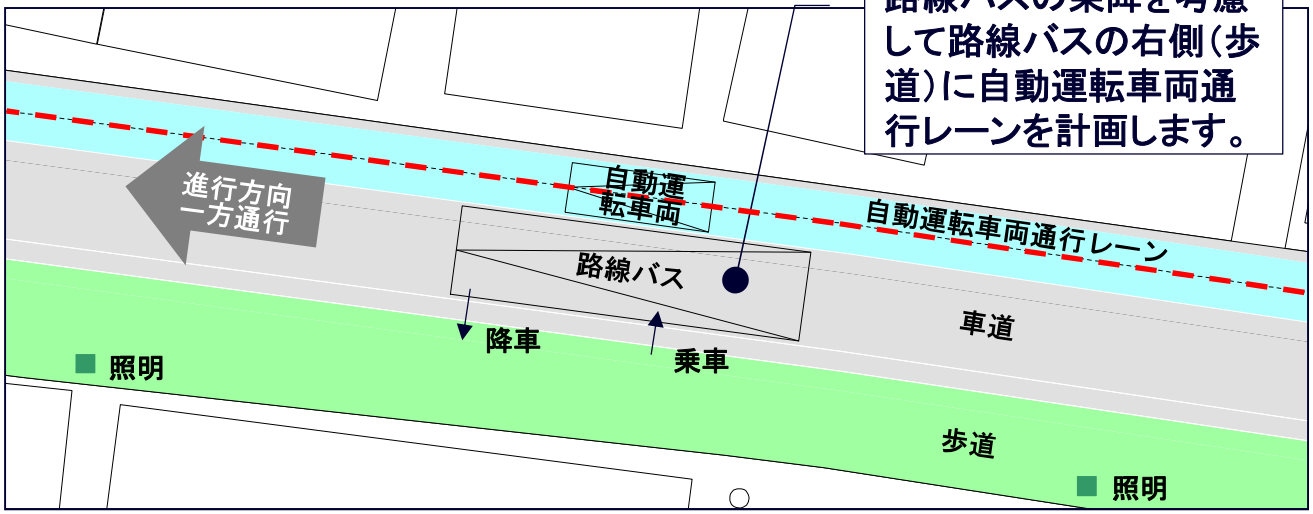
整備内容

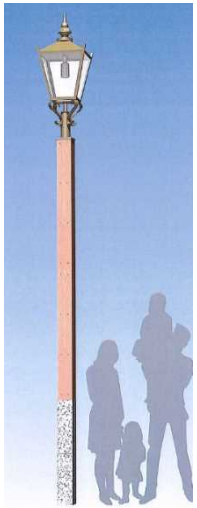


2-3.まちなかの環境整備（道路整備）

道路整備については、老朽化した舗装や車道と歩道の段差解消のために車道及び歩道の舗装、景観や防災に配慮して無電柱化（地中化や裏配線）などを計画しています。

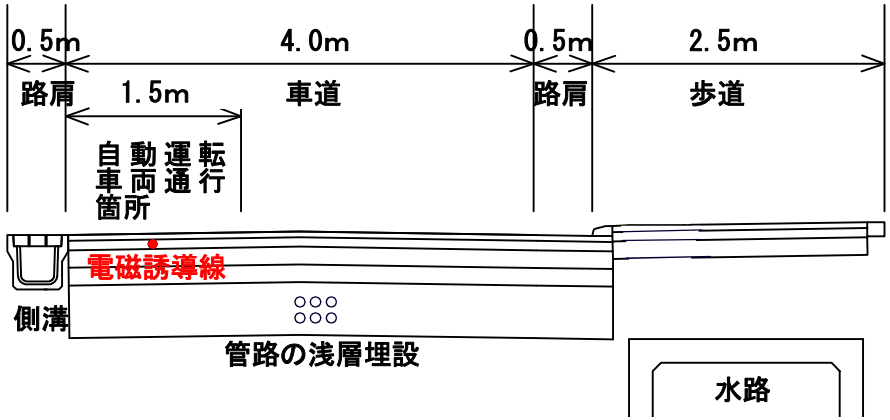
【計画図】





自然木を活用した街路灯

【標準横断図】





自動運転車両
全長：3.3m×全幅：1.2m
4人乗り

2-3.まちなかの環境整備（道路整備）

良好な都市景観の創出・安全で快適な歩行空間の確保・都市防災機能の強化を図るため、無電柱化を推進します。無電柱化にあたっては、低コスト化の検討や浸水対策などを考慮した計画とし、実現化に向けて関係機関協議を進めています。

【整備前】



【整備後イメージ】



【機器設置例】

・機器は、浸水対策を考慮し、「ソフト地中化又は、嵩上げによる地上機器設置」の検討を進めて行きます。



【地中化の整備手法の例】

・整備手法は、整備コスト的に有利となる「管路の浅層埋設」の検討を進めて行きます。

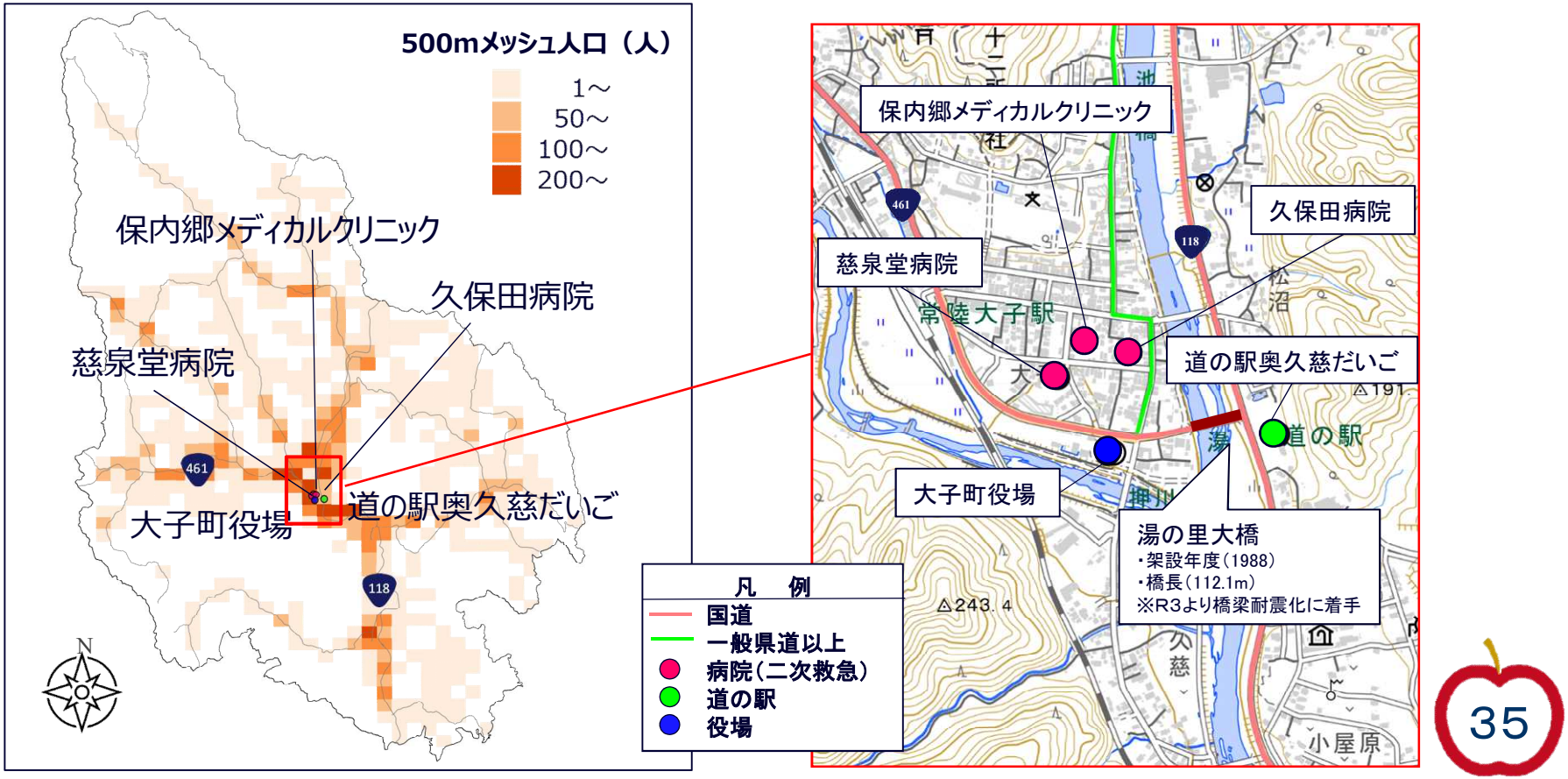


方針3 周辺と連携したまちづくり

3-1. 道路ネットワークの機能向上（町内外の連携①）

○大子町においては、国道118号、国道461号が第一次緊急輸送道路に指定されており、災害時の避難・救助、物資供給などの応急活動を担う重要な路線となっています。
○「道路の防災評価の評価手法（案）」（平成28年2月；国土交通省道路局都市局）に基づき、防災拠点（役場、道の駅、病院）へのアクセス性などから、大子町の道路ネットワークの防災機能評価を行いました。

＜大子町の道路ネットワーク、防災拠点、人口の分布＞



3-1. 道路ネットワークの機能向上（町内外の連携①）

○道路ネットワークの防災機能評価の結果、橋梁耐震化を実施していない国道461号湯の里大橋付近において、通行不能となる可能性があり、防災機能ランクがB（脆弱度0.29）と判定されました。
○湯の里大橋の通行止めにより、平時には大子町のほぼ全域が30分以内に中心市街地にアクセスできるのに対し、災害時には30分を超える地域が発生する可能性があります。
○国道461号湯の里大橋の橋梁耐震化を図ることで、道路ネットワークの防災機能ランクはAに改善されます。

＜国道461号 湯の里大橋付近の防災機能評価の結果＞

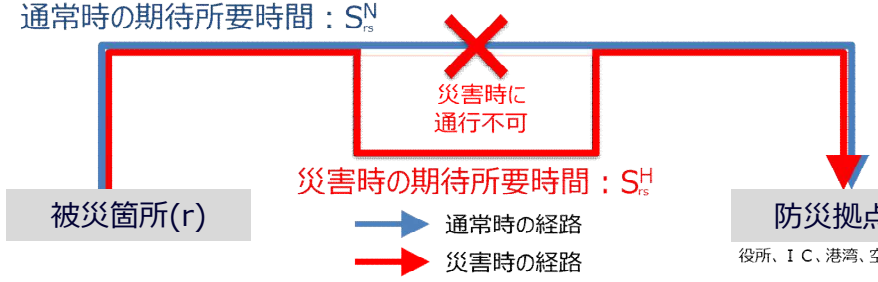
	耐震補強前（寸断時）	耐震補強後
脆弱度　※（防災機能ランク）	0．29（B）	0．00（A）

■道路の脆弱度の算定方法

『道路の防災機能の評価手法（案）』（国土交通省道路局・都市局；H28.2）

＜計算式＞

$$z_{rs} = 1 - (S^{N}_{rs} / S^{H}_{rs})$$



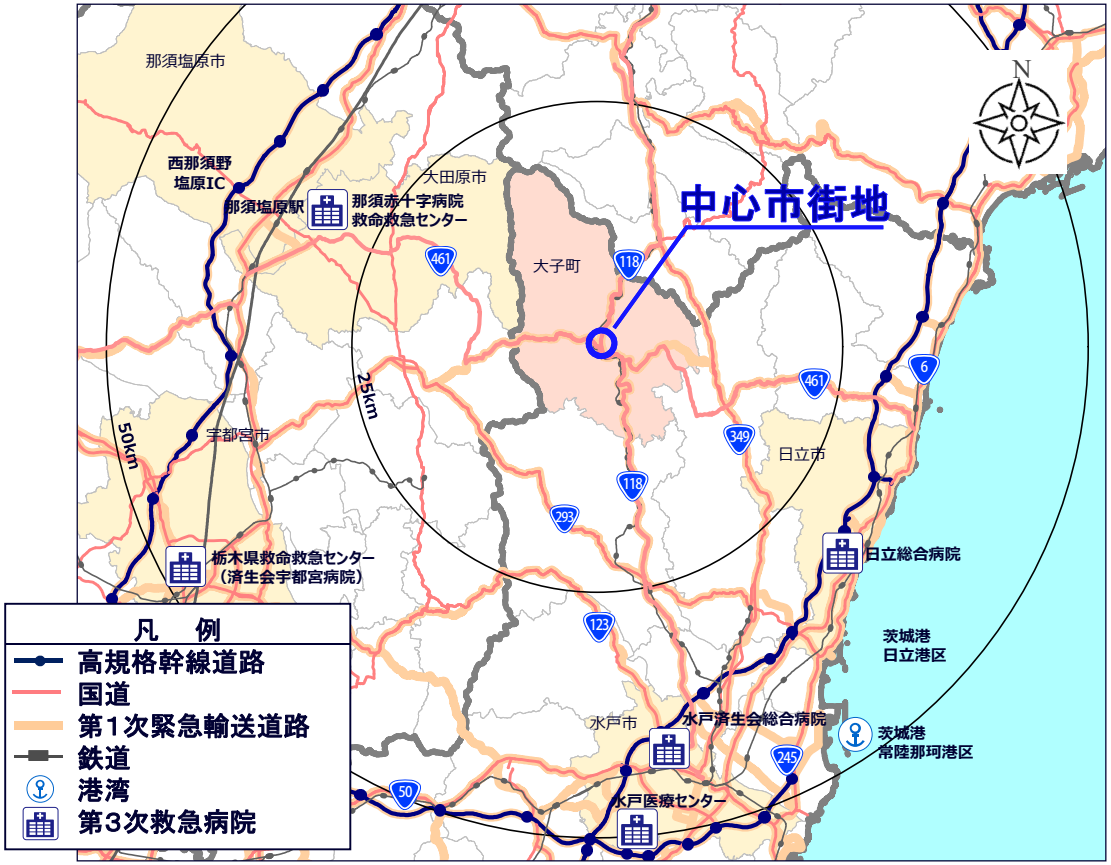
＜防災機能ランク＞

評価ランク	脆弱度※	備考
A	0	通常時と災害時は同じ所要時間
B	0より大～1/3未満	災害時は通常時の1.5倍未満の所要時間
C	1/3より大～1未満	災害時は通常時の1.5倍以上の所要時間
D	1	災害時には到達不可能

※脆弱度・・・通常時と災害時の防災拠点への期待所要時間から算出される指標。0～1の値をとり、1に近いほど災害時に道路が脆弱であることを示す。

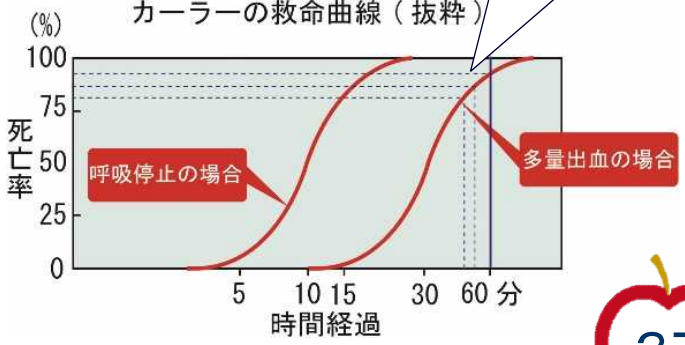
3-1. 道路ネットワークの機能向上（町内外の連携②）

○本町は、高規格幹線道路の空白地帯に位置しており、地域の交通が国道118号、国道461号に依存しています。そのため、観光シーズンを含む平常時には交通集中が発生するとともに、災害発生時には町が孤立する危険性が高まり、町民・観光客共にサービスの低下が発生します。
○また、最寄りの第三次救急病院まで、最短でも40km以上離れており、重症患者の搬送に時間を要します。
○さらに、本町は県内唯一の寒冷地域であるとともに、他市町村より積雪の頻度が高く、降雪後の路面凍結期間が長いため、平常時、災害時問わず冬季の安全な通行への対応が必要となります。



◇大子町の救急搬送件数　821件
- ・町内搬送　515件
- ・町外搬送　249件
  - ①水　戸　市　：95件
  - ②常陸大宮市：56件
  - ③日　立　市　：35件
  - ④そ　の　他　：63件
- ・県外搬送　57件
  - 栃　木　県　：　37件
  - （うち大田原市：25件）
  - そ　の　他　：　20件

※令和元年度の実績値



大田原市まで約60分かかるところ、5分短縮できれば約3%、10分短縮できれば約10%救命率が上昇します。

3-1.道路ネットワークの機能向上（大子町の骨格をなす道路の脆弱性）

○本町の骨格をなす国道118号と国道461号においては、山岳地域を通過するため走行支障箇所（線形不良・幅員狭小）が多数存在するとともに災害発生確率が高く、また、迂回路が遠いため、災害時の影響が大きくなります。
○また、旅行速度が前後区間より低い箇所や、大型車などによる局所的な速度低下箇所も存在します。
○さらに、栃木県の県境部までの区間においては、幅員が5.5m以上あるものの、路肩が狭く、大型車両や緊急車両の円滑な通行に支障があります。

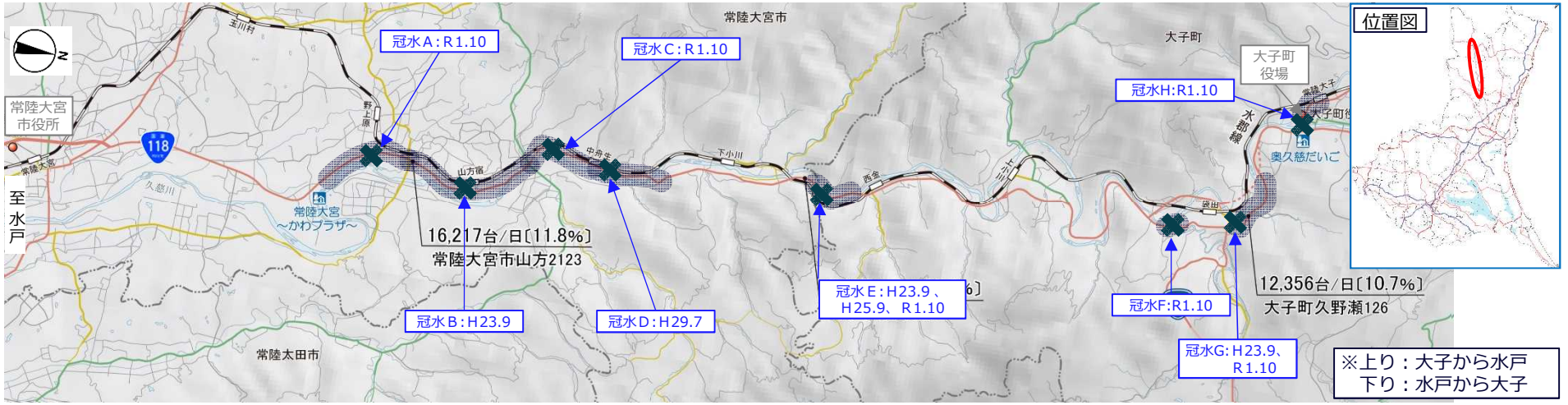


■走行支障箇所

	国道118号 箇所数	国道461号 箇所数
線形（R＜1000）	3	73
幅員（W＝5.5m）	0	28
通行止め発生状況（平成22年度以降の累計値）	21	3

3-1.道路ネットワークの機能向上（ゆずりあい車線の整備）

○令和3年度は、国道118号の冠水区間のうちから「ゆずりあい車線」の整備を行います。



○現地の状況



写真1 道の駅「常陸大宮」付近

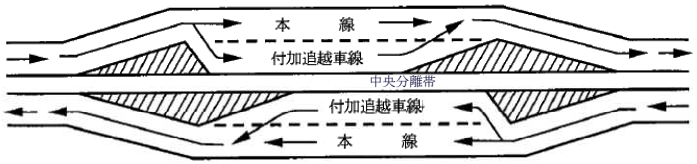


写真2　山方トンネル付近

○平面図（道の駅「常陸大宮」付近）



○車線の構造



3-2.公共交通実証実験

大子町では、町民及び観光客の移動利便性向上と、町内の観光業・飲食業などの地域経済の活性化を図るとともに、持続可能な公共交通体系の再構築に係る新たな移動手段の効果検証を行うために、公共交通実証実験を行っています。



【観光客用チラシ】



期間：令和2年10月1日から令和3年9月30日まで
協力：茨城日産自動車株式会社・株式会社NTTドコモ

①AI観光乗合タクシー
大子町内の観光地から観光地などへの移動に利用可能。AI運行システムを活用し、予約と運行ルートを管理。

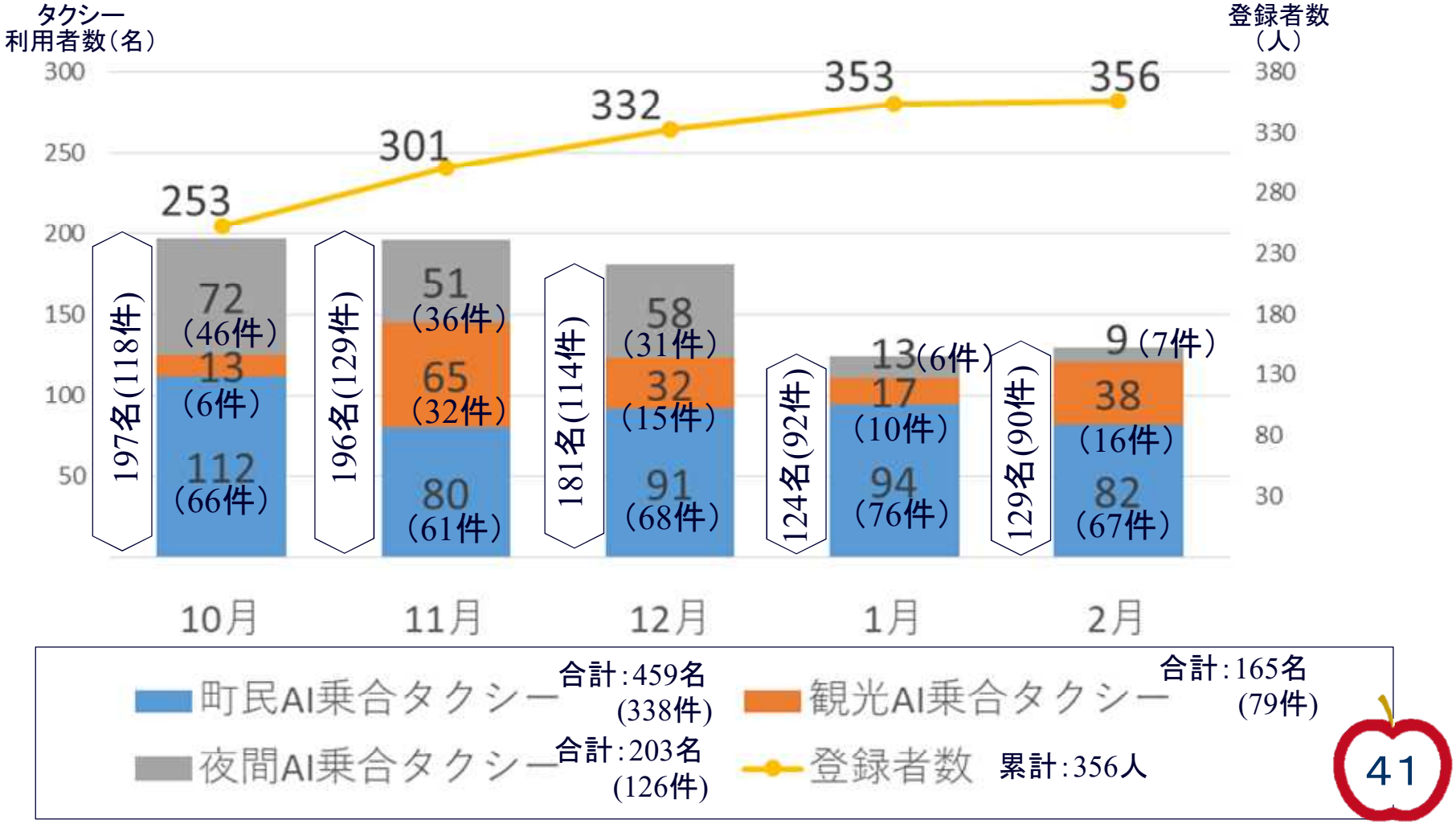
②AI町民乗合タクシー
大子町民を対象として、AI運行システムを活用した乗合タクシーを運行。複数の方に乗車していただき、効率的に目的地まで送りと届ける。

③AI夜間乗合タクシー
夜間に町内飲食店を利用される方の移動手段確保と、町内飲食店の活性化を目的として乗合タクシーを運行。AI運行システムで予約と運行ルートを管理。

④カーシェアリング
無人のレンタカーシステムにより、観光やビジネスなどで町内の移動に利用可能。災害時には、避難所などでのバックアップ電源として使用する計画。

3-2.公共交通実証実験

公共交通実証実験の5ヶ月間の利用状況は、町民AI乗合タクシーが459名、338件、観光AI乗合タクシーが、165名、79件、夜間AI乗合タクシーが203名、126件利用しています。会員の登録者数は、累計356名となります。



3-3.自動運転システムの試行

大子町では、少子高齢化が進む中での移動手段の確保や新庁舎の郊外移転に伴う移動手段の確保、常陸大子駅や道の駅奥久慈だいごに訪れる観光客のまちなかへの誘導が課題となっています。

このような中で、町民の日常の足としての利便性向上や、常陸大子駅や道の駅奥久慈だいごを訪れる観光客のまちなかなどへの移動手段として自動運転システムの導入を検討しています。

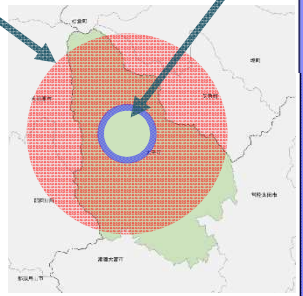
大子町の公共交通ネットワーク構想

郊外からの移動手段

【鉄道・高速バス】
・県外、周辺市町から常陸大子駅や道の駅を結ぶ

【路線バス】
・郊外から、常陸大子駅を結ぶ

【AI乗合タクシー】
・町内の郊外から常陸大子駅やまちなかなどを結ぶ

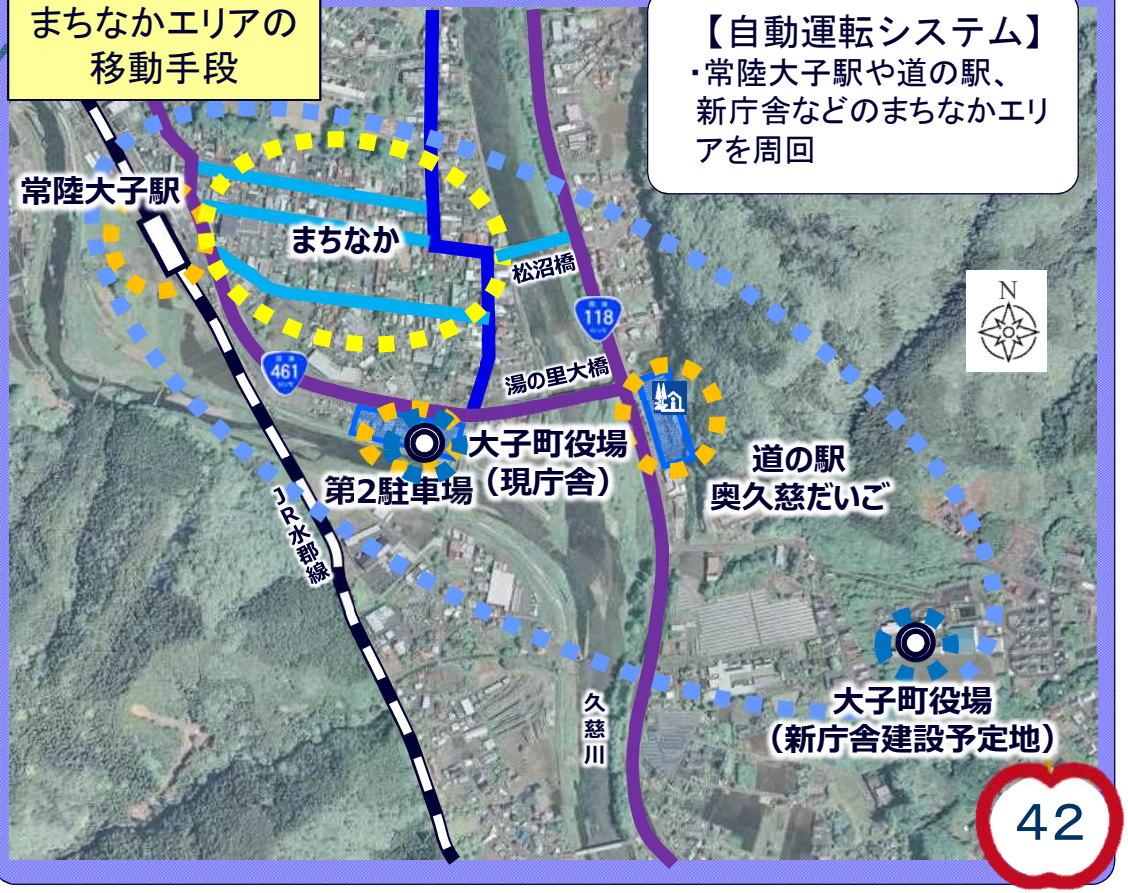


連携

大子版MaaSの導入を見据え各交通機関の連携強化を目指す

まちなかエリアの移動手段

【自動運転システム】
・常陸大子駅や道の駅、新庁舎などのまちなかエリアを周回



3-3.自動運転システムの試行

新庁舎への移転スケジュールなどとの整合を図り、社会実験を行います。
令和3年度より社会実験に向けた検討を進め、学識経験者、国、県、町、民間企業などから構成される準備会を設置します。

【想定ルートイメージ】



社会実験と平行してワークショップなどを開催し、町民や利用者の意見を聞きながら、段階的に社会実験を進め、事業の実現性を検証していきます。

年度	2019年度(令和元年度)				2020年度(令和2年度)				2021年度(令和3年度)				2022年度(令和4年度)				2023年度(令和5年度)			
月	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3
新庁舎建設				基本設計		実施設計				建築工事										
										外構工事										
													移転		供用開始					
自動運転									社会実験に向けた検討 ・ 社会実験 ・ 社会実装											

3-3.自動運転システムの試行

【参考例】

市街地部での自動運転の社会実験の事例となります。

高知県四万十市	自動運転技術利活用による地域公共交通システムの構築

背景・課題	•公共交通の確保、生活の安定が担保された魅力ある市街地及び利便性の高いサービス提供が可能な地域公共交通網の形成 •運転手担い手不足が常態化する中、地域特性やニーズに対応した次世代型車両の導入 •高齢化地域での公共交通の担い手および公共交通不便地域での生活の足の確保に加え鉄道駅から本市拠点地域へのアクセス向上 •維持管理費削減のため、運行経費削減に繋がる持続可能な地域公共交通システムの構築
事業概要	•本市拠点地域での公共交通手段として自動運転車両を導入 •地域住民の生活の足及び観光客の移動手段を確保し、生活の質の維持及び市街地活性化を両立 •既存の地域公共交通体系について、公共交通事業運営の段階的なコスト縮減・効率化を探る



実証実験に活用予定車両（イメージ）



「自動運転車両」と「まちバス」との役割分担（イメージ）

3-3.自動運転システムの試行

【参考例】

高知県四万十市でのアーケード内に電磁誘導線を仮設で設置している事例となります。



テープ状の素材を用いて、電磁誘導線を設置することでルート設定を柔軟に変更することができます。

3-3.自動運転システムの試行

自動運転バスの実証実験の開始に向け、地域の特性に合った実験車両を選定します。

バスタイプ

①株式会社ディー・エヌ・エー



「車両自律型」技術
（GPS、IMUにより自車位置を特定し、規定のルートを走行（点群データを事前取得））

定員：6人（着席）
（立席含め10名程度）
速度：10km/h程度
（最大：40km/h）

②先進モビリティ株式会社



「路車連携型」技術
（GPSと磁気マーカ及びジャイロセンサにより自車位置を特定して、既定のルートを走行）

定員：20人
速度※：35 km/h 程度
（最大40 km/h）

乗用車タイプ

③ヤマハ発動機株式会社



「路車連携型」技術
（埋設された電磁誘導線からの磁力を感知して、既定ルートを走行）

定員：6人
速度：自動時 ～12km/h 程度
手動時 20 km/h未満

・走行実績が最も多い
・安定的
・維持管理費が安い
・システム構築が容易

④アイサンテクノロジー株式会社



「車両自律型」技術
（事前に作製した高精度3次元地図を用い、LiDAR（光を用いたレーダー）で周囲を検知しながら規定ルートを走行）

定員：4人（乗客2人）
速度※：40km/h 程度
（最大50 km/h）

3-3.自動運転システムの試行

自動運転システムの導入により、町民の身近な足として常陸大子駅やまちなか、大子町役場（新・旧庁舎）への移動手段を確保するとともに、まちなかへの誘導が課題となっている観光客を常陸大子駅や道の駅奥久慈だいごからまちなかに誘導を図ります。

施設	対象者	
	町民	観光客
常陸大子駅 （交通結節点）	・町内・町外への移動	・町内・町外への移動
まちなか	・飲食 ・買物 ・金融機関 ・医療機関	・まち歩き ・飲食、買物 ※現状では、観光客のまちなかへの誘導が課題
道の駅 奥久慈だいご	・温泉施設	・買物 ・休息 ・温泉施設
大子町役場 （新・旧庁舎）	・窓口（住民票の発行） ・行政手続き	―

※道の駅については、第2駐車場と道の駅奥久慈だいごを結び観光客の利便性向上を推進します。

3-3.自動運転システムの試行

自動運転システム社会実験により、以下の項目の検証などを行います。

項目	主な検証・整理する内容
走行空間	・走行空間の安全性の確保に向けた検証 ・電磁誘導線、標識の設置など必要となるインフラ設置の設置箇所の検証
運行管理	・運行モニタリングシステムの実用性の検証 ・スマホや電話などによる予約システムの検証
事業実施体制	・運営主体と行政との役割分担 ・地域の協力体制（ボランティアによる運行支援）
利用者	・町民の利便性向上に向けた検証（日常の足） ・観光客の利便性向上に向けた検証（駅⇔まちなか⇔道の駅の連携による観光客のまちなかへの誘導）
事業採算	・事業としての採算性、継続性の検証 ・実用化時の利用代金の検証

3-3.自動運転システムの試行

【参考例】

茨城県常陸太田市ではワークショップを通して地元意見を把握し、自動運転を試行しました。今回の試行にあたっても、地元意見を把握しながら進めます。



（3）公民連携型施策について

住民参加タイプ

■意向調査の概要

第１回意向調査の概要

①ワークショップ
（対象：町民・県立大子清流高校の生徒）
・令和２年11月30日開催
・テーマ「賑わいがあり、災害に強いまちづくり」

②アンケート調査
A.ヒアリング調査（対象：観光客）



・令和２年11月15日実施
・駅前7件、永源寺臨時駐車場77件、
道の駅47件　合計130件回収

B.アンケート調査
（対象：県立大子清流高校の生徒・保護者）
・令和２年11月20日～12月4日実施
・生徒141件、保護者98件回収



C.インターネット調査（対象：町民）
・令和２年11月20日～12月4日実施
・134件回収

更なる深堀り

第２回意向調査の概要

③ワークショップの追加調査
（対象：町民・県立大子清流高校の生徒）
・令和３年２月２日からおおむね２週間
・内容：今回は、前回から踏み込んで、皆さんの日常生活で特に関わりが強い「まちなかの賑わい」に絞り実施しました。
前回、みんなで考えた「こうなったら良いな」を「こうなれば自分はまちなかを利用する」や「こうなれば自分はまちなかを訪れる」というように、一歩進んで考えることを通じて「じぶんごと」化して意向を把握しました。



④アンケートの追加調査
D.インターネット調査（対象：町外居住者）
・令和３年２月２日～２月15日実施
・131件回収

■第１回意向調査の結果

		多数意見など	少数意見など
①ワークショップ	まちなかの課題	・図書館が小さく、本屋がない ・空き家、空き地の増加 ・道路が狭い ・バスの本数が少なく、最終バスが早い	・まちなかの温泉のイメージが弱い
	賑わいのためのアイデア	・空き家、空き店舗の活用 ・商店街を明るく ・自動運転の実証実験の実施	・チャレンジショップを整備する ・大子のレトロな風景を活かしたフォトスポットをつくる
	防災のためのアイデア	・防災訓練の実施や案内板の設置 ・役場跡地の活用 （平時：公園、被災時：避難場所） ・街灯を増やす	・防災訓練を“楽しく”開催する
②アンケート調査	まちなかの課題	・買い物できる場所が不足 ・活気（にぎわい）がない	・歩いて回るのが大変 ・まちなかに店舗が少ない ・歩道がなく歩きにくい ・働く場所がない
	賑わい・活気をもたらすために必要な施設	・買い物ができる施設 ・ゲームセンターなどの娯楽施設 ・レストランやカフェなどの飲食店	・観光に来た若者が立ち寄れる場所が必要 ・地元の憩いの場であり、観光案内やカフェを備えたスペースで町の魅力を発信できれば良い

■第２回意向調査（③ワークショップの追加調査）

第１回意向調査「①ワークショップ」の成果をもとに、各チームの「賑わいのまちづくり」の取り組みアイデアに対し、更なる深堀りをしました。

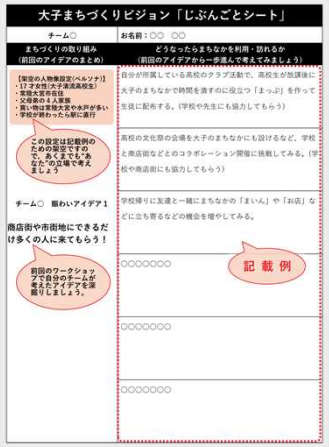
①ワークショップ：「賑わいのまちづくり」の取り組みアイデア	
チームAのテーマ	①イベント時に特産品を販売する ②空き家を活用する
チームBのテーマ	①イベントを開催する ②空き店舗のチャレンジショップ ③まちなかのベンチで集う場所をつくる
チームCのテーマ	①商店街を明るくする
チームDのテーマ	①空き店舗を飲食可のたまり場にする ②道の駅に大子の特産品を置く ③レトロな風景を生かしたフォトスポットをつくる
チームEのテーマ	①観光客向けのお土産が買える場所を作る ②まちなかに本屋さんを作る ③自動運転バスを整備する

更なる深堀り

第２回意向調査

③ワークショップの追加調査

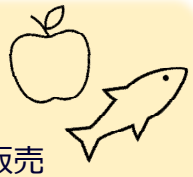
「じぶんごと」化



■第２回意向調査の結果（③ワークショップの追加調査）

チームＡ：「じぶんごと」化

①イベント時に特産品を販売する



・**商店街だけでしか買えない**特産品（商品）の販売
（パッケージのみ商店街限定デザインでもあり）

・大子の特産品は少し年齢高め向けなので、
若者向けの商品もあると良い（特に雑貨）

・お茶やスイーツやお茶やリンゴのアロマ？とか化粧品など

・定期的に商店街内で、お茶の飲み比べ会やリンゴのいろんな品種**食べ比べ会**などを行う

・特産品の出品場として**「空き家」の活用**によるイベント開催で出品することで特産品の販売促進を図る

・日曜祭日に軽トラック数台に特産品、お茶、コンニャク、シャモ肉、リンゴ、野菜等をまいんの駐車場で農協、町に協力してもらい、開催する

・まいんに図書(ミニ)館にして欲しい

②空き家を活用する



・お茶の飲み比べやリンゴの**食べ比べの試飲会**などを行う。

・**商店街に図書館**的なものがあるととても便利

・**ホワイトキューブ**があれば、展示会やWS、コーヒーショップなど自由に使えるし、明るく見えて良いと思う

・空き家や空き店舗などを改修し、**イベントブースとして貸出し**を行う（ローテーションにより日替わり出店）

・賑わいのイメージとしては、祭りの露店やフリーマーケットをイメージ
（出店者は、特産品販売者、農業者、町内職人などが手掛けた作品（吊るし雛、布マスク、竹細工など）を想定）

・各店舗によるイベントではなく、まちなか全体で行うイベントにして、集中的に誘客する

・**老人のいこいの広場**にしたい
（冷暖房完備、お茶、コーヒーが飲める）

・**清流高校の農産物の販売**

★アイデア★
高校生でも利用できる
チャレンジショップ

・元気で暇な老人のサークルを作り、ボランティア集団の作業できる程度の仕事を見つけてあげる

■第２回意向調査の結果（③ワークショップの追加調査）

チームＢ：「じぶんごと」化（1/2）

①イベントを開催する



・町内でイベントを調整し、
季節にとらわれないイベントは開催時期を
移動することにより、年間で絶え間なく
イベントが開催される活発な町にする

・まいん駐車場、駅前通り、本町通りを
利用し、例年行っているよさこい祭りや
花火大会、百段階段のひな飾りのほか
に大道芸など

・大子町外から来てくれるような、
家族で参加できるイベントを開く
(参加型のもの：まちなかでの宝探しなど)

・**自然を利用したキャンプや散策**をする
イベントを開く

・**マルシェ**を定期開催：朝市
(定期が大事)

②空き店舗の
チャレンジショップ



・新規出店を促すために、空き店舗を
商店及び飲食店向けに各1店舗程度
リフォームを行い、出店を検討している方
が短期間のお試し出店をしていただく
「チャレンジショップ」を作る

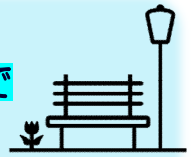
・空き店舗を借り受け、子ども達が気楽に
出入りできるよう駄菓子屋、玩具店等

・**シェアキッチン設置**でテーマカフェ
(ex ○○さんの手作りベーカリーカフェ、
○○おばさんの田舎食堂)

→カフェをやってみたいけれど商売は無理と
いうお母さんやおばあちゃん、学生さん

→グランドメニューじゃなくてその日限りの
メニューに価値あり

③まちなかのベンチで
集う場所をつくる



・駅前通り、本町通りにいくつかのベンチが
あり、道路が狭いため、歩道にあって、
集うと言うよりもちょっとした休憩場と
なっている

・ベンチで集う場所は、ある程度広場が
必要では

・まちなかの広場と言えば月極駐車場に
なっているので、ちょっとした広場は
なかなかみつからない

・屋根があるところで、近くに自動販売機
を置く

・近くに川や**見晴らしの良い景色**が
あると人が集いやすい

・職人さんの**ベンチ品評会**

■第２回意向調査の結果（③ワークショップの追加調査）

チームＢ：「じぶんごと」化（2/2）

①イベントを開催する



・**骨董市**をおしゃれに：
フリマにならないようコンセプトを設ける

・**古本市**(Book Sale)

・大子の**お土産商品開発ワークショップ**

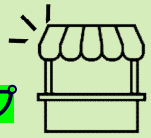
・夜の人通りが増えたら良い
＝電気(灯(あかり))が点る(半野外)

・「お酒のイロハ」屋外ver

・**屋台村**でお酒と地元食材を楽しむ

・**生バンド演奏(ジャズ)**

②空き店舗のチャレンジショップ



・お店をやりたいと思う人のお手伝いを
高校生などがボランティアで行う

・大子町外に宣伝して、お店を
やってみたい町外の人に来てもらう

・**お店づくりのワークショップ**

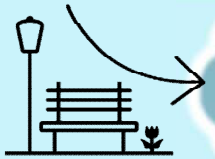
→誰かプロをひとり、商品の売り方や
ディスプレイの仕方など、遊びながら
楽しく学べる場

(内装リノベのワークショップはあるけど、
その後の使い方WSがないから)

③まちなかのベンチで集う場所をつくる

・駅の近くに空調管理ができる、誰でも
休めるスペースがあると駅を利用する
人も使いやすいと思う

・まちなかいろんなところにベンチを設置し
ベンチ巡りマップを作る



★アイデア★
住民参加WSによる
マップ作成

→ベンチを生かした**インスタ映えショットの提案**(風景が良い場所、カップルに
おすすめな静かでロマンティックな
スポットづくり)

・軒先ベンチday
→あたたかい日にピクニック感覚でベンチ
ランチ、お弁当をどこか1ヶ所で販売して
好きなベンチで食べる

■第２回意向調査の結果（③ワークショップの追加調査）

チームＣ：「じぶんごと」化（1/2）



商店街を明るくする

・定期的なイベントとして**フリーマーケット**をやる

・空き家を使った期間限定のお店をやる

・街中の空き店舗を利用して定期的に**若者をターゲットとしたチャレンジショップの開催**（家賃等の補助）

・役場駐車場跡地を公園化し、商店や農家の方に協力をいただき、朝市や夜市を開催して活気ある街中を創出する

・夜の屋台村で賑わいの創出（AI乗合タクシーの活用）

・街中の道幅が狭いのでお年寄りでも安全に歩けるように整備し、ほっと一息できる**足湯の整備**で湯けむりの似合う商店街の演出
観光客にも気軽に足湯を利用していただく（草津のようなイメージつくり）

・久慈川や押川にも足湯を作り景観を楽しんでもらう

・**レトロ感溢れる商店街を利用**して、インスタ映えするイベント（光のアートフェスタなど）を開催しSNS等を利用して**大子町をPRする**

★アイデア★
アーティストと連携した
フォトスポットの拡充

・**空き店舗を利用**して小さなお子様が利用できるブック屋の開設（定期的に紙芝居や朗読会の開催）

■第２回意向調査の結果（③ワークショップの追加調査）

チームＣ：「じぶんごと」化（2/2）



商店街を明るくする

・昔の話ですが、常陸大子駅を起点に袋田の滝と大子広域公園を結ぶロープウェイ構想がありました
これは、袋田の滝に来た観光客を街中に来てもらうものです
面白い発想だと思いますがいろいろなハードルが高すぎたので実現できませんでした

・大子町中心商店街といえば「レトロな商店街」であるため、今の雰囲気を壊さないように、**レトロな照明や看板を設置**する

・空き店舗等を活用して、飲み歩きイベント「だいごお酒のイロハ」の様な夜間開催イベントを定期的に開催する
（夜市、カフェナイト、キャンドルナイト、映画フェス、グランピング屋台等）

・定期的に**歩行者天国**にして、路上にテーブル・イス・ベンチなどを設置し、町内外の飲食店等に屋台を出店してもらい、
飲み食べ歩きができるようなイベントを開催する

・商店街のお薦め等を広報紙に載せる、役場職員の方々の協力をお願いする

・袋田の滝、大子駅のライトアップだけではなく駅前商店会の協力を得て、営業時間の延長、店舗前のライトアップ(冬だけでも)を!!

・毎月一度(または2ヶ月に一度)100円商店会ではなく、各店舗の目玉商品を販売し、「ここに、この店がある」といったように周知する
目的も兼ねてみる

・車移動ではなく、とにかく歩いてもらう!!特に町職員にはお願いしたい!!

■第２回意向調査の結果（③ワークショップの追加調査）

チームD：「じぶんごと」化（1/2）

①空き店舗を飲食可のたまり場にする

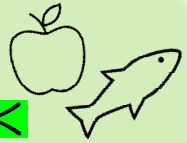


・大子駅周辺のお店とタイアップをし、**オープンカフェ**を作り町民が入りやすい店づくりにする

・空き店舗を飲食店として開いてくれる事業者を誘致する
(修繕あるいは創設への支援があると良い)

・週毎、月毎など、**高校生でも運用できる「チャレンジショップ」を開設**する
(商店街に関わる人に協力をしてもらう)

②道の駅に大子の特産品を置く



・だいごみに認定された商品を並べる

・大子町内の「お土産」が「ほぼ揃う」物産コーナーの設置

・季節ものなど物販できるイベント販売ブースの設置および町内事業者が利活用できるシステムの構築。
地元野菜等の販売スペースについて広くしスーパーと競合できるようにする
（※日常使いに便利にする）

・観光客のお土産購入について当該施設で完結できるような品揃えにする
（※観光拠点として便利にする）

③レトロな風景を生かしたフォトスポットをつくる

・写真愛好家をターゲットにし、**おすすめの撮影場所に誘導する**



・「レトロな風景」の維持活動も必要と思い、商店街の「今」をできるだけ残していく
（店構えなど難しい点もあるが、商店街の人たちにご理解とご協力をしてもらう）

・町公式インスタ、個人インスタなどでフォトスポットがあることをPRしていく

・写真を撮ってもらいやすいような環境の整備（スマホスタンドの設置等）を行う

■第２回意向調査の結果（③ワークショップの追加調査）

チームＤ：「じぶんごと」化（2/2）

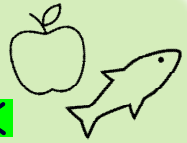
①空き店舗を飲食可のたまり場にする



・田舎特有の誰がどこで何をしていた（どこで飲んでいた）等の他人の視線が気になるため、外から中が見えない店舗の作りは重宝している。一方、閉鎖的な雰囲気があると感じている。
そのため、空き店舗を飲食可能なフリースペースにする際は、外から見える店舗外にベンチを置いてオープンスペースも併せて作る等、開放的にして、公園のようにフラフラしていても許容されるような雰囲気作りもセットで行う

・机や椅子を設置し、感染症予防のためアルコール消毒を設置して、誰でも利用できるスペースだと分かるような看板をおく

②道の駅に大子の特産品を置く



・大子町の特産品についての情報を掲載したパンフレットを道の駅に置く

・大子町のポータルサイトをより多くの人に見てもらえるよう、ラジオやパンフレットで宣伝することで、大子の特産品について知ってもらう

・道の駅だけで大子の特産品を買いそろえることができるという情報を掲載する

・大子の特産品の**美味しい食べ方のレシピ**や魅力を書いた紙を商品の近くにおいて、買って帰って作って食べたいと思ってもらう

③レトロな風景を生かしたフォトスポットをつくる



・撮った写真の投稿を促すようなサービス（ＳＮＳに〇毎投稿すると割引等）があると写真をとって店舗も利用したくなる

・商店街の閉まっているシャッターに絵を描いたり、モダンな照明などを設置したりすることで、**商店街全体をフォトスポット**にする

・賑わっていなかったとしても「穴場!?」みたいな感じで通ってみたいと思ってもらう

・「大子デパートノスタルジックたてものmap」を活用して大子の良さをもっと知ってもらう

・町民、県内外からの観光客にもこのマップを見てもらうために、あらゆる所に紙バージョンを置く
(ex.飲食店、道の駅の利用者に配布するなど)

■第２回意向調査の結果（③ワークショップの追加調査）

チームＥ：「じぶんごと」化（1/2）

①観光客向けのお土産が買える場所を作る



・観光客が行きやすい場所が良いと思うので、**観光客が多く利用する駅の前に建てる**

・**道の駅を改修**し大きくして、売り物のバリエーションを増やす

・商店街の各店舗でここの特徴を生かした土産物の販売
(衣料品店、写真館、時計店、菓子店、他)
※清流高校とのタイアップなど

・観光客が効率的に店舗を回れるよう、既に土産品販売を行っている店舗も含め、**欲しいものが一目で分かるようなマップの作成**
(もしくは既存のものに追加)

②まちなかに本屋さんを作る



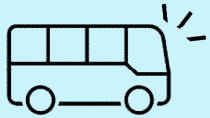
・まちなかにある**古い建物を利用してレトロな雰囲気の本屋**を作る

・日本一面積が大きい本屋、日本一種類が多い本屋など本屋を観光地にする

・読書の町を謳って大型書店の誘致
(出張所というかたちで営業？)
※他自治体の取り組みを参考に…

・学生やお年寄り(移動手段が徒歩の方等)が立ち寄りやすい場所への開設
※可能であれば空き店舗の活用

③自動運転バスを整備する



・バスが走らない道路がなくなるくらい路線を増やす。そうすれば行きたいところへ行くバスがないから歩いていた人が減り、多くの人がバスに乗るようになると思う

・バス停をなくせば良いと思う。
乗りたい人はバスが来たら手を挙げるなどしてバスに合図をする
料金はAIを搭載してAIの顔認証で算出すれば良いと思う
そうすればバスに乗りやすくなって、乗る人も増えると思う

・2020年に国内で初めて導入した境町の取り組みを参考に

・**役場移転に伴い、町民の移動手段**にする

■第２回意向調査の結果（③ワークショップの追加調査）

チームＥ：「じぶんごと」化（2/2）

①観光客向けのお土産が買える場所を作る



・道の駅をはじめ多くのお店でお土産などを購入できるが、どこで何を販売しているのか分からないため、道の駅で**お土産のマップの作成やアプリ等での周知**、タブレット等での検索システムの整備を進めることや、観光シーズンに駅周辺など賑わいのあるところにお土産販売の出張ブースを作るなど、大子町に来ていただいた多くの方にお土産を買っていただけるよう取り組むことが必要

・常陸大子駅わきのコンビニにお土産のコーナーを設置してもらう

・**商店街の空き店舗に町内のお菓子や特産品を集めたSHOP**を作るか、もしくは流通公社が商品を集めて販売・PRするスペースを作る

②まちなかに本屋さんを作る

・大子町は「読書の町」という取り組みがある中で、大子町内において図書館は現在１箇所しかないことや町内に書店がなく本に触れる機会が少ない現状となっている
そこで、現在、**空き家、空き店舗など**なっている建物を改装して本屋を作り本に触れる機会を増やす

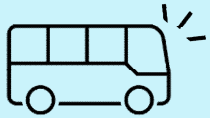


★アイデア★
空き地を活用した移動式図書館

また、本の販売だけでなく、貸し出しや読書・学習スペースなども同時に整備し多くの方に利用していただけるようにする

・中央公民館裏にあるプチソフィアを商店街に移転し、合わせて貸し出し以外に販売も行う(民間委託等)

③自動運転バスを整備する



・**観光客向けまちなか運行(**国登録有形文化財や主要スポット(＋車内放送で紹介)、紅葉時期の永源寺への季節運行(渋滞緩和))

・大子町では病院やスーパー、道の駅など町内外問わず多くの方が、利用する施設が存在し、路線バスが巡回しているが、本数も多くなく時間が決められている
自動運転バスを整備することで車などの移動手段がない方など、今までよりも多くの方の利用やバス運転手の人材確保につながる

・他市町村での事例を参考に、町内(例えば新庁舎と駅間)の短距離、一区間のみでも運行を実施してみる

■第２回意向調査の結果（④アンケートの追加調査）

D.インターネット調査（町外居住者対象）

【来訪目的】上位2つ
① 観光・レクリエーション、趣味・娯楽などの利用のため。
② 知人、友人、親族などの訪問。

【期待する取り組み】上位2つ
① 居住のための環境を整え、町外から移住・定住しやすくする。
② 農林水産などの個性的な地場産品を磨き、購買意欲や価値を生みだす。

【大子町の改善点】上位8つ
・道の駅の改修や拡張
・空き店舗、空き家が多い
・観光情報サイトを充実してほしい
・観光情報案内が不足している
・道路が狭い、歩道がない
・周遊バスがあるとよい
・景観の統一
・駅周辺にカフェがほしい

【大子町にあると良いもの】上位8つ
・飲食店、スーパー、ファーストフード店など
・利用しやすい公共交通機関の整備
・医療機関の充実
・観光PR
・地域の特産品のPR
・働ける場所
・レンタサイクル
・観光地ならではの案内板

【大子町に居住する可能性】
・移住又は二地域居住するかもしれない。（8件/131件）
・移住又は二地域居住の候補地になるかもしれない。（27件/131件）



移住の可能性について大子町に魅力を感じ、一定数（約3割）の希望者がいることがわかりました。



■これまでのワークショップ・アンケート調査の結果を踏まえた施策への展開

ワークショップ・アンケート調査の結果の整理

ワークショップ・アンケート調査による意見

大子まちなかビジョンの施策の中で対応
①防災力のあるまちづくり
②賑わいのあるまちづくり
③周辺と連携したまちづくり

公民連携の施策として「移住促進のための施策推進」、「避難訓練の実施」、「チャレンジショップの運営」、「レトロなまちなみの活用」などの意見があります。今後、事業を推進して行く中でのキーワードとなります。

施策の中で対応するもの以外の「行政」、「公民連携」、「民間」が行うこと

項目		町民などの意見の内容
行政の施策	A.ヒアリング調査（観光客）	レンタサイクルの運用見直し、観光PR
	B.アンケート調査（高校生・保護者）	観光振興、特産品の商品開発、読書の町としての具体的な施策の検討
	D.インターネット調査（町外居住者）	観光振興、観光PR、観光地の施設整備、特産品の商品開発、特産品のPR、駅前に役場機能を持った施設配置
	●WS	観光PR、防災スピーカーの整備、景観の活用、読書の町としての具体的な施策の検討
	●WSの追加調査	観光振興、読書の町としての具体的な施策の検討
公民連携の施策	B.アンケート調査（高校生・保護者）	移住促進のための施策推進
	C.インターネット調査（町民）	移住促進のための施策推進、レトロなまちなみの活用
	D.インターネット調査（町外居住者）	避難訓練の実施、チャレンジショップの開催
	●WSの追加調査	チャレンジショップの運営、レトロなまちなみの活用
民間の施策	A.ヒアリング調査（観光客）	店舗・飲食店など、電気自動車の充電場所設置
	B.アンケート調査（高校生・保護者）	店舗・飲食店など、本屋、活気あるまち、魅力あるまち、医療機関、シェアハウス、現状維持
	D.インターネット調査（町外居住者）	店舗・飲食店など、医療機関、働く場の確保、眺望を活かしたグランピング施設整備
	●WS	本屋、特産品の販売、まちなかにベンチを増やす
	●WSの追加調査	特産品の販売、本屋

■これまでのワークショップ・アンケート調査の結果を踏まえた施策への展開

公民連携施策についての具体的な意見	
移住促進のための施策推進	・町外居住者や事業者を対象に**テレワーク需要の取り込み**や**積極的にモニターツアーを企画**して移住希望者へ積極的にアピールする。
	・**畑付きの古民家などは移住者ニーズがある**と聞くため、**データベース化しPR**する(移住希望者向けワンストップサービスも重要)
チャレンジショップの運営	・新規出店を促すために、**空き店舗を商店及び飲食店向けに各1店舗程度リフォーム**を行い、出店を検討している方が**短期間のお試し出店**をしていただく「チャレンジショップ」を作る。
	・**街中の空き店舗**を利用して定期的に**若者をターゲットとしたチャレンジショップの開催**する。
	・週毎、月毎など、**高校生でも運用できる「チャレンジショップ」を開設**する。(商店街に関わる人に協力をしてもらう。)
	・**空き店舗**などを**1日～1週間とかで気軽に使える仕組み**（チャレンジショップ）が必要である。
避難訓練の実施	・中心市街地の避難場所が移転先の役場になると移動距離が長い為、**早めの避難指示、誘導が必要**である。
	・**選難訓線や避難場所の選定**、リスクにおける備えなどを**小さいコミュニティで情報共有することが必要**である。
	・**訓練を"楽しく"開催**。イベント的にやればもっとフランクに楽しく参加出来そう。
	・災害がいつ起きるかわからない、この時代、各地区での**避難訓練の実施**や**防災スピーカーなどの整備が必要**である。
	・地域(地区)単位での**自主防災マニュアルを整備**し、**定期的な訓練**をすることが必要である。
レトロなまちなみの活用	・**丸型ポストや古い木造家屋が残っていて雰囲気は好き**なのですが、**一方通行が多い商店街も利用しにくい**ですね。
	・**レトロ感溢れる商店街**を利用して、**インスタ映えするイベント（光のアートフェスタなど）を開催**し**SNSなどを利用して大子町をPR**する。
	・まちなかの環境整備については、**昭和を感じさせるレトロな街並みに魅力を感じる観光客向け**に史跡や遺跡、まちなかアート、飲食店などの**情報発信の強化**と併せて**案内板などの整備**も必要(観光案内、自転車の貸出など、観光客のニーズ応えたい)
	・耕作放棄地や空き地、建築物の老朽化や空き家は、**レトロな街並みのプラスイメージに転換**すべき。
	・**「レトロな風景」の維持活動も必要**と思い、**商店街の「今」をできるだけ残していく**。(店構えなど難しい点もあるが、商店街の人たちにご理解とご協力をしてもらう。)

■これまでのワークショップ・アンケート調査の結果を踏まえた施策への展開

大子町商店街にぎわい創出事業（令和3年度　実施予定）

地域おこし協力隊を卒業した隊員が、**空き店舗**を活用した事業を行う。**アフターコロナに向けて観光客の呼び込み**や**地元住民の交流の場を創出**し、**関係人口・交流人口の拡大**と**商店街のにぎわい創出**を狙います。
各事業は、**期間限定で開催**する予定です。

カフェ・キッチン事業

キッチンを**シェアキッチン**や**簡易なレンタルキッチンの場**とし、新規開店を狙う事業者を呼び込みます。**大子町の特産品を使用した商品開発**や提供の場とします。多様な特産品がある町の特徴を活かし、**関係人口・交流人口の拡大**と、**町のPR**を行います。



ワークショップ事業

アートなどに関するワークショップを開催します。ギャラリースペースとして、展示者によるワークショップや、**町内にあるアーティスト滞在施設と連携**しながら、ワークショップを開催します。交流型ワークショップを開催することにより、**町民とアーティスト等との交流**を図ります。



ミニマルシェ事業

建物全体で異なる業者を誘致し、**マルシェ（市場）を開催**します。建物全体をマルシェ会場として活用し、気軽に集まり憩う場所を目指します。
商店街と連携しながら**商店街全体でも楽しめるイベント**になることを目指します。



（3）公民連携型施策について

事業者参加タイプ

■事業者ヒアリング調査の概要

【目的】
・地域経済などの担い手である町内の各種事業者や団体から今後の大子町や常陸大子駅周辺のまちづくりに関する意見を得る

【手法】
・町内立地企業のうち「大子まちづくりビジョン」の施策や大子町全体のまちづくりに関連性のある業種毎に数社を抽出（合計10団体）
・まちづくりヒアリングシート配布による聞き取りまたは記述方式

【実施概要】
・令和3年2月2日(火)からおおむね2週間

【まちづくりヒアリングシート】

常陸大子駅周辺の「大子まちなかビジョン(案)」検討のためのまちづくりヒアリングシート

この調査は、大子町内の各種の事業者様や団体様を対象として、地域経済の担い手としてのお立場での大子町や常陸大子駅周辺のまちづくりについての考えをお伺いし、現在策定中の「大子まちづくりビジョン(案)」の検討の基礎資料とさせていただくために実施するものです。お忙しい中恐縮ですが、ご協力をお願いします。

1．常陸大子駅周辺のまちづくりに関するご意見

1-1	常陸大子駅周辺のまちづくりの検討案(参考資料参照)への期待、ご意見やご提案をお願いします。

★方針1「防災力のあるまちづくり」…役場移転・新庁舎建設、道の駅奥久慈だいご防災機能強化、久慈川緊急治水対策プロジェクト(堤防嵩上げ・河道掘削)等

【記載欄】

★方針2「賑わいのあるまちづくり」…大子町役場跡地の利活用、道の駅奥久慈だいごの交流拠点強化、水と親しむ河川整備、まちなかの環境整備　等

【記載欄】

★方針3「周辺と連携したまちづくり」…自動運転の試行、道路ネットワークの機能向上　等

【記載欄】

1-2	上記の常陸大子駅周辺のまちづくりを行政と連携して取り組むことにご賛同いただけますか。

1.全面的に賛同できる　2.おおむね賛同できる　3.あまり賛同できない　4.まったく賛同できない

2．大子町全体のまちづくりに関するご意見

2-1	大子町では、少子高齢化による過疎化が進んでいることで、働き口の減少、耕作放棄地の増大、住宅等の建築物の老朽化、空き家や空き地の増加、獣害や病虫害、地域コミュニティの希薄化、店舗やサービス業の撤退、公共交通の利便性の低下などの多種多様な課題を生じており、地域住民の日常生活、企業活動や地域経済の維持などへの悪影響が予想されます。加えて、令和元年の台風被害などの大規模な自然災害への備えも急務となっています。 このような状況を踏まえて、大子町全体のまちづくりへのご意見やご提案をお願いします。

【記載欄】
・職の確保や産業振興
・耕作放棄地や空き地、建築物の老朽化や空き家の影響
・獣害や病害虫の被害
・地域コミュニティの希薄化や崩壊
・店舗やサービス業の撤退
・公共交通の利便性低下
・風水害などの大規模自然災害への備え

2-2	上記のような大子町の課題を踏まえて、貴団体様での新しい事業展開や工夫、地域活動・地域支援など、広範なアイデアについてお聞かせ下さい。 例：高齢者のための買物支援事業や見守り事業への取り組み、町内のみならず町外の居住者や事業者を対象とした新たな需要の発掘、町外や異業種などの従来と異なる事業者との連携　など

【記載欄】
・例：高齢者のための買物支援事業や見守り事業への取り組みに関する取り組み
・例：町内のみならず町外の居住者や事業者を対象とした新たな需要の発掘に関する取り組み
・例：町外や異業種などの従来と異なる事業者との連携に関する取り組み

■事業者ヒアリング調査の結果

ヒアリング調査（事業者対象）（1/2）

	団体の業種分類など	行政との連携意向	団体としての事業展開や工夫、地域活動・地域支援など（●）（※各団体からの提案・要望）
1	教育機関(高校)	全面的に賛同	※大子町に短期居住してもらい、大子町に納税してもらうモデル事業構築 ※結婚後に大子町に戻れる取り組みの充実 (町の婚活アプリでのAI診断など) ※町のホームページをわかりやすく改善
2	公共交通(バス)	全面的に賛同	●高齢者のための買物支援事業や見守り事業 (町や商業施設とタイアップした買い物タクシーなど)
3	小売店(陶器)	おおむね賛同	※歴史的遺産や文化的遺産、物産品を集約してPR ※十二所神社裏の散策路を整備 (ハイキングコース・散策路)
4	金融機関	おおむね賛同	●民間の情報活用やビジネスマッチングなどで企業誘致や産業振興 (HP掲載だけでなく積極的に取りに行く)
5	金融・通信	全面的に賛同	●郵便局の見守りサービスを使って買物支援サービス充実 (高齢者以外にも拡充) ※町外居住者や事業者を対象にテレワーク需要の取り込み ※モニターツアーにより移住希望者へアピール ※栃木、福島の地域的連携により魅力向上 (町外事業者連携)
6	医療機関	全面的に賛同	●町役場の連絡や相談の対応先、親族の連絡先を明確にする ※インターネットやSNS、新聞、テレビ、ラジオなどのマスコミに売り込む

■事業者ヒアリング調査の結果

交通事業者や金融機関、社会福祉団体による高齢者のための買い物支援などの意見が多く寄せられました



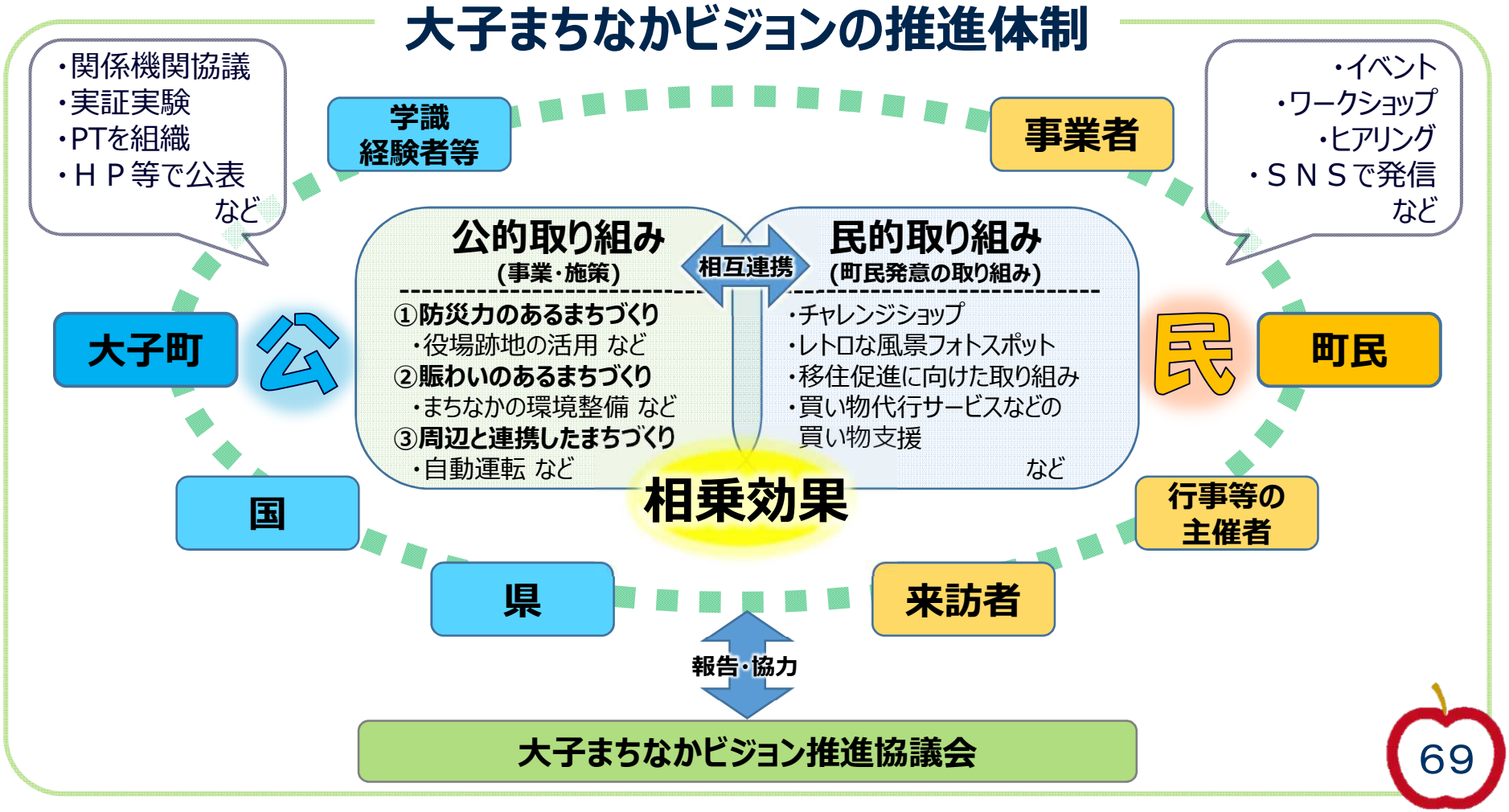
ヒアリング調査（事業者対象）　（2/2）

	団体の業種分類など	行政との連携意向	団体としての事業展開や工夫、地域活動・地域支援など（●）（※各団体からの提案・要望）
7	商工関連	おおむね賛同	●買い物難民が増えている状況を踏まえ、御用聞きの定期的な訪問（委託業者への支援体制） ●現在のコロナ禍状況により、対面よりネット通販に特化した取り組みで需要を拡大する ●町、商工会、観光協会など協働ECサイトの構築 ●町内事業者から異業種交流会の参加についてアンケート調査（例えば、町外のどのような企業と交流したいのか　など）
8	観光関連	全面的に賛同	（特になし）
9	社会福祉	全面的に賛同	●高齢者のための有償買い物代行サービス ●町外や異業種などの事業者との名刺交換会
10	情報通信（FM事業者）兼NPO法人	全面的に賛同	●大子町を担う次世代の若者を育てるための事業の展開 ●子供たちの夢を育てるための、作文コンテストの実施、夢実現のための資金の 供給、夢実現のための様々な取り組み・支援 ●大子町移住を促進し、彼らの交流により早く自立できるような支援 ●FMだいごでの体験や仕事を通じて、声優やシナリオ作家、アナウンサー、イベント関係など、これまで町にはなかった職業へチャレンジする機会の提供 ●町外のFM事業者と連携することで、町の情報発信を強化する ●茨城放送の中でも取り上げて頂いていることから、地域のFM事業者としてさらにいい番組・大子らしい番組の提供を強化するとともに全国放送の番組にもチャレンジする

（４）今後の進め方について

■大子まちなかビジョンの推進体制

今後の大子まちなかビジョンの推進体制は、大子まちなかビジョンで掲げた各種施策などの実現を目指し、公民連携による地域づくりを推進するため、民間や行政、学識経験者などによる組織を結成し、持続的かつ効果的な事業推進を目指します。



（5）巻末資料

これまでの経緯等

開催日	主な会議内容など	備考
令和2年10月19日	**第1回 大子まちなかビジョン推進協議会**	開催場所： 大子町営研修センター
令和2年11月15日	観光客を対象としたヒアリング調査	回収数：130件
令和2年11月20日 ～12月4日	町民を対象としたWEBインターネット調査	回収数：134件
	高校生・保護者を対象としたアンケート調査	回収数：141件（高校生） 回収数：　98件（保護者）
令和2年11月30日	町民・高校生によるワークショップ	テーマ： 賑わいがあり、災害に強いまちづくり
令和2年12月14日	**第2回 大子まちなかビジョン推進協議会**	開催場所： ホテルレイクビュー水戸
令和3年2月2日 ～2月15日	町外居住者を対象としたWEBアンケート調査	回収数：131件
令和3年2月2日より 概ね2週間	ワークショップの追加調査	11月30日ワークショップ成果をもとに 更なる深堀りの実施
	町内民間企業等へのヒアリング調査	対象：地域経済等の担い手である 町内の各種事業者10団体
令和3年3月23日	**第3回 大子まちなかビジョン推進協議会**	開催場所： ホテルテラスザガーデン水戸

大子まちなかビジョン推進協議会委員

	所　属　等	役　職	氏　名
1	芝浦工業大学	客員教授	◎ 谷口　博昭
2	筑波大学　システム情報系　社会工学域	教授	○ 堤　　盛人
3	茨城大学　理工学研究科	准教授	平田　輝満
4	独立行政法人都市再生機構（UR都市機構）	理事	土屋　　修
5	東日本旅客鉄道株式会社　水戸支社	支社長	小川　一路
6	大子町議会	議長	齋藤　忠一
7	大子町商工会	会長	大藤　博文
8	国土交通省　関東地方整備局　道路計画第二課	課長	吉田　幸男
9	国土交通省　久慈川緊急治水対策河川事務所	所長	石川　武彦
10	茨城県　警察本部　交通規制課	課長	小森　正彦
11	茨城県　土木部	部長	伊藤　　高
12	大子町	町長	高梨　哲彦

◎：会長　○：副会長